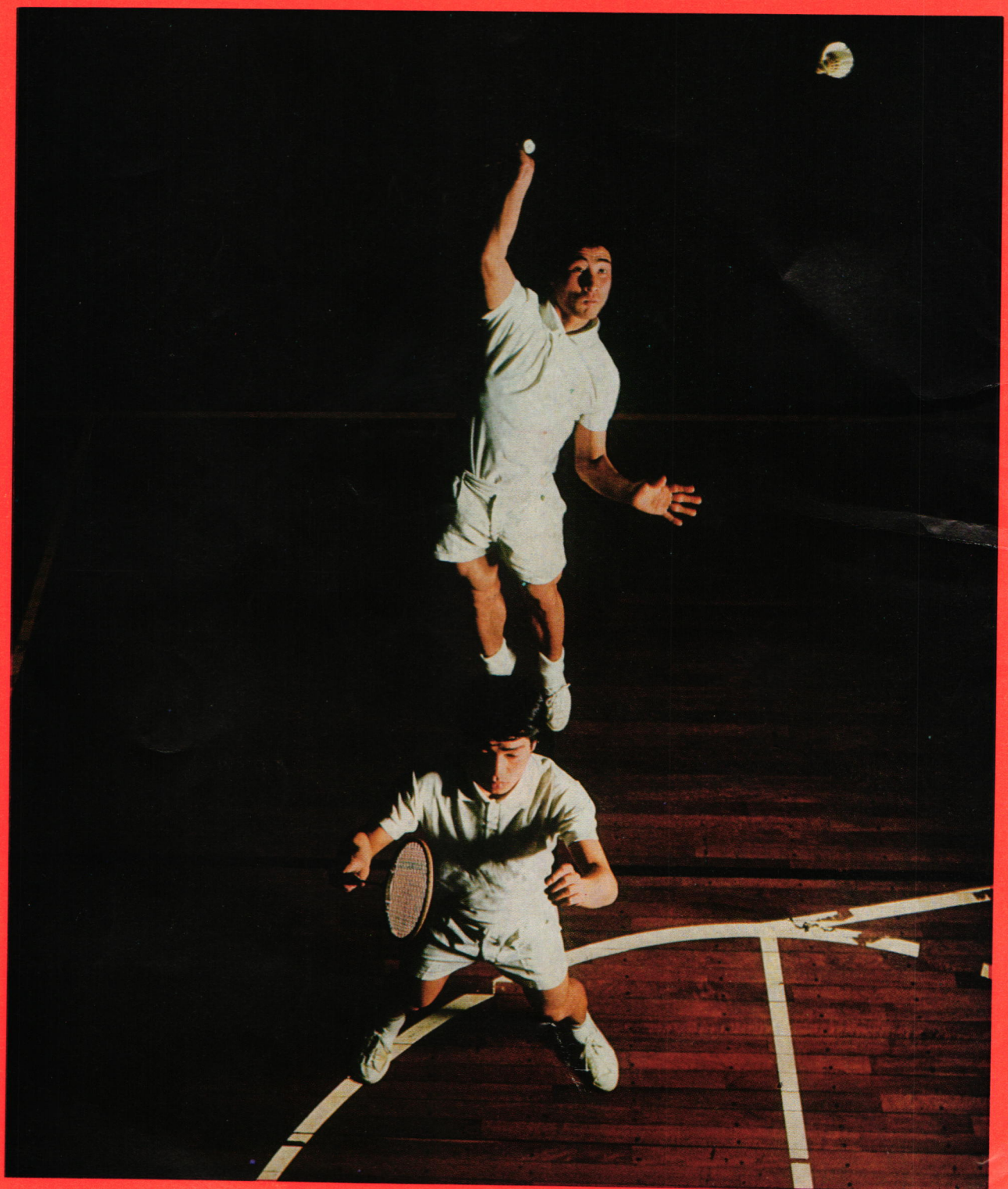
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年5月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.21
5 1971



BADMINTON RACKET



スマッシュの切れは

シャフトの弾力(しなり)が決する

〈バドミントンを科学する〉ほかのラケットよりシャフトが長い。長い分だけしなる。反発力が強まる。だから、スマッシュが切れる。鋭くくいこむ。ヨネヤマのラケットには、科学的な攻撃力が、潜んでいます。というのも、わたくしどもヨネヤマは、カンと経験だけでは、ラケットを造らないからです。冷静に科学する眼と、精細な実験の積み重ね、それがヨネヤマのラケット造りだからです。

No.6000ファイブエースデラックス/￥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

私のひとこと

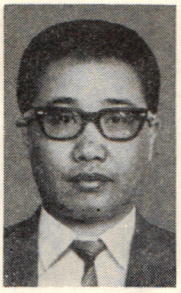
日刊スポーツ運動部
盛川　宏

中国にも目を開こう
バドミントンと国際交流

卓球の世界選手権に中国が参加して大いに実績をあげたことは記憶に新しい。

赤い国からやって来たスポーツマンたちは「勝負より友好第一」という看板をかかげて来日し、それは日中友好に限らず、米中、英中と、友好親善を文字どおり絵に書いたように実現してみせた。

ところが残念なことに他のスポーツとの交流は見られず、卓球だけに終始してしまった。



中国代表団が来日中に日本バレーボール協会の首脳が、はるばる名古屋まで出向いて日中のバレー交流を持ちかけたが、結実しなかった。

中国側のいい分は「卓球がそのお手本」ということで、中国のいわゆる政治三原則を守らない団体とは交流できない――と毅然たる態度を示した。

「スポーツに国境はない」といい、また「スポーツに政治を介入させるな！」といった論議はこれまで繰り返されて来たことだが、こと中国に関してのみいえば「ふたつの中国」「ひとつの中国、ひとつの台湾」は絶対に許されない大前提である。

従ってこの大原則があてはまらない競技団体とは交流できないわけだが、卓球に滅法強い中国は、またバドミントンでも仲々の実力国である。かって日本の女王高木紀子選手が、インドネシアのジャカルタで中国選手と対戦し完敗したこともあるほどだ。

このバドミントンの日中交流をやってみては――という提案が、ある中国通から私になされた時、正直にいって「なんとか実現させたい」と思ったものである。

一九七一年の世界は、中国を抜いて考えられない――というのが私の持論である。それだけにバドミントンの日中交流が実現したらどんなに素晴らしいだろうと考えたわけだ。

元来、日本のスポーツ界は日本体育協会の性格と同様に非常に保守的なところである。日中交流の希望を持っていても容易に踏み切れない団体が多い。だが何か新しいことをやるためには、それなりの苦労はつきものである。

さいわい国際バドミントン連盟の規約に交流してはならないという制約はない。とすれば交流の余地は十分あり得る。単に日中交流だけでなく、日本スポーツ界はもっと世界に目を向ける必要がある。バドミントンは全英や欧州遠征と大いに交流をやっているが、既成のものだけにとらわれず、大いに意欲的な冒険をしてほしい。

日中交流は決して簡単には実現しないが、少くとも、そこで手をこまねいているだけでは進歩はあり得ない。すぐ隣りに、すぐれたバドミントン王国がある。

日本よりも強いといわれる中国との交流は先方もまた待望しているはずである。

■今月号のダイジェスト■

★バドミントン発展のために　今春から日本協会の第二期〝川端内閣〟がスタートした。日本のバドミントンは、ようやく発展途上にあるが、まだまだ、その力は弱く、多くの問題をかかえている。

激しいスポーツ界の〝自由化〟の波の中で、バドミントンはなにをなすべきか。広報担当者の放談によって、多角的なメスを入れてみた。（P2～6）

★全国にひろげよう、ママさんバドミントン　バドミントンの魅力のひとつは、入門しやすく、楽しめるという点にある。頂点に立つ選手強化も、よく考えてみれば、まず、底辺の愛好者をふやすことからはじまる。いま各地ではママさんの間にバドミントン熱が盛んになりつつあるという。その実態の一例を紹介、全国に同じような輪がひろがることを期待した。合わせて、市民のスポーツ、いわゆる社会体育の先進国、西ドイツのもようをお知らせする。（P8～13）

★バドミントンが五輪大会に登場　来年八月、西ドイツのミュンヘンで開かれるオリンピックのとき、バドミントンが〝エキシビション〟として披露されることになった。

正式種目ではないが、これは一つの前進。「五輪種目に」という動きも、これをきっかけに活発になっていきそうだ。（P24、協会の動き）

★ファイター小島選手が結婚　男子の日本チャンピオン小島一平選手が、天皇誕生日に〝第二の人生〟に出発した。新婦は彼が「北海道で見つけてきた」のだそうだ。（P17、北から南から）

★バドミントンにおける守りと攻め　勝負はすべて〝攻撃と防禦〟のからみ合いである。しかし、この二つは別々のものではあり得ない。バドミントンでの展開は、はたしてどうか。前ユ杯監督の今井先氏の名論文によって、さぐってみる（P26～28）

★その他、写真グラフは「社会人×学生」の名場面から。競技としては欧米遠征の記録を収録した。詳しい報告は、次号でお伝えする。その他、技術講座もますます快調です。



バドミントン発展のために

広：報：担：当：者：座：談：会

高い視野に立ち〝百年の大計〟を

一昨年六月、ユ杯が日本で開催され、しかも日本が世界選手権二連勝を飾って以来、バドミントンも、ようやくスポーツ界だけでなく、一般の人々に認識され、発展への道をすべり出しました。本誌の発刊なども、そのひとつです。

しかしながら、私たちの周囲を見まわすと、あまりにも問題が多い。やるべきことは、いくらでもあるのに、実際はほとんど手がつけられていない。または気持はあるが力がたりない。

そこで本日は、新しく広報のスタッフとなった方々に、あらゆる角度から放談していただき、協会関係筋、一般愛好者の参考にしたいと思います。

（編集部のあいさつ）

ほしい将来の展望

執行部には〝行政〟不在

――二月の日本協会総会で今後二年間を担当する新役員が決まったわけですが、今期の施政方針というか、運動目標は決まったのですか。

A 第一回の常務理事会で川端理事長が、重点課題として、「底辺拡大」という所信を表明している。

B しかし、あまりはっきりしたもの、具体的なものがない。少くとも、これまではなかったといっていい。

C そう。いつも思うことだが、毎期、大きなスローガンを発表してほしいですね。

D 一年ごとの話もいいが、長期路線にのっとった〝ビジョン〟が大切。具体的に、なにをどうするから、何年後にはどうなる、という……プレーヤー、若い人に〝希望〟を与えるようなものを出すべきだ。

――失礼だが、協会首脳はそこまで頭がまわっていない。

F それが一番の問題だ。いまの協会には日常業務の〝運営〟はあるが〝行政〟がない。

G 会議の数はくさるほどあるが、やっている内容は、毎年同じ。たとえば、底辺拡大といっても、ママさんバドミントンを組織化するのか、しないのか、やるならどうすれば可能なのか、という〝ものの捕え方〟がない。

A 選手強化にしても、いつ選手を集めて合宿する、ということで、ことたれりではこまる。

B スポーツ界の〝自由化競争〟の中で、バドミントンがなにをやるべきか、が根本だ。

まず基本方針を固めよ
未開発の〝底辺〟層

――底辺拡大の話から、うかがっていきましょうか。

C これも、問題がいくつかある。日本協会ばかりでなく、底辺拡大ということの意識というか、認識がないのではないか。

D 実体すら、つかんでいないと思う。自衛隊でもバドミントンをやっている。ママさんの間でも普及がめざましい、というようなことは、むしろ「バドミントン界」が発掘した。

E それも、すでに昨年から出ているのだから、協会首脳部の目はしがきけば、いまごろ、協力関係がかなり進んでいるはずだ。

F 「バドミントン界」が役員によく読まれていないのじゃないか。

G 自衛隊のことなど、たしかに、その通りだ。手を結ぶこと大いにけっこう、と口ではいいながら、忘れてしまったのか、実際はだれも自衛隊連盟の人と話し合っていない。

A 常務理事会とか、専門委員会の場は、そういうことを論議すべきところだ。

B まあ、日本協会の幹部ばかり責めてもしょうがない。人手、お金、時間、いろいろカベがあるのだから。

C だから、日本協会になにもかもやれ、というのは無理、そうじゃなくて、日本協会はこうやればいいと思う。

つまり①基本方針を決め②実体を調べ③その資料にもとずいて、どうやっていくか方策を立て③予算を考え⑤地方の協力を得る。

D 地方協会の段階では、かなり実体がわかっているはず。地方協会を通じ、それを調べてもらえばいい。地方協会で不明な点は、さらに市町村の協会とか、体育館、公民館といったところで調べてもらいたい。

E しかし、そのためにも、たとえば、ママさんの問題なら「全国家庭婦人連盟」を結成していくのだ、というような、大方針をまず示さなければいけない。

F 同時に、地方協会の段階で、同じような地方組織をつくる、という〝指導〟をすることが大切。なんといっても、現場を持っているのは地方だ。

G 具体的に業務を進めていくのは、指導委員会だと思うが、こうした委員会の中で、それを担当する人を決めるとか、あるいは常務理事会が、委員会に要望を出して、それを重点目標にするとか…。

A 指導委員会は、競技力向上委と任務が重複しないよう、底辺関係に視点を向けたらどうだろう。

B 高校合宿、年一回の指導者研修だけで、手いっぱいらしいが。

――本誌はつぎにスポーツ少年団を取り上げ、実体を調べるつもりですが。

C いずれにしろ、底辺拡大は地道で時間のかかる仕事。じっくり腰をすえてかかってほしい。地方の人も、未登録愛好者も、中央の手を待っている。

地方との密接な体制を
要は〝お題目〟より徹底化

――たしかに地方協会との関係が大切。改善のための問題はありませんか。

D たしかに結びつきはうすいですね。地方では、日本協会からの見返りがなにもない、との不満もあるようだ。

E 地方協会は中央より財政的基盤が弱いわけだから、いくらいい施策を日本協会が決めても、地方のお金の負担が増大するのでは、なんにもならない。

F そうだ。しかし、日本協会も、お台所は苦しい。それについては、別にふれるとして、とぼしい財布でも、使い方ひとつで、いまよりは効果が出る。

G それはこういうことだ。つまり、高校合宿とか指導者研修会なども、年に一度、東京に集めるより、たとえば地方ブロックごと、二、三の県単位に集め、指導委員会のメンバーがそこに出かける方が、はるかに大勢の人が受講できる。指導委員も全国ブロック単位にいるわけだから…。

A そういうことだけでなく教職員、実業団、学生連盟との結びつきも密接でない。

B 年に一回の全国大会を開くときだけの関係ではこまる。底辺拡大にしろ、選手強化にしろ、こうした組織と、よく話し合って理解を得、協力してもらわなければ、仕事が進まない。

C 地方が経済的に負担をこうむらなくて、あれば助かるもの、たとえば、バドミントンに関する科学的データなどを送ってやれば、大いに活用できる。地方協会ということだけでなく各校、クラブ、体育館などにも同一データがあれば、そこの場で、役立つのだから。

記者の目

先日、バレーボールを取材していて、こんな話を聞いた。

わが社が主催している春の全国選抜高校大会で、決勝まで進出し、旋風をまきおこした日大山形（山形市）という学校がある。ここに、東京から、わざわざ女学生ファンが押しかけていったというのである。

学校側もせっかく来たものを追い返せない。女学生たちにはお目あての選手があったらしいが、練習を見ておとなしく引き揚げたという。

この話、ことの良し悪しについては触れない。問題は高校生のスター選手にまで、ファンがついてきた、という現象であるバレーしかり、サッカーの釜本、杉山しかり。

スターなどといえば、マユをしかめる人もいるだろうがヒーローといいかえてもいい。バドミントンも、人格、技術ともに一流の〝英雄〟をつくりあげることが浮上の手段でもある。

（サンケイ新聞　木村照夫）

記者の目

バドミントンは、なかなか面白いスポーツだ。休みのときなど、たまたま、わが子を相手に家のそばでラケットを振ることがあるが、けっこう汗をかいて疲れる。

こんなに手軽るにやれるものが、どうして普及しない、と聞いたら「底辺は、大変に広い」と、逆にしかられた。

記者としてはウカツのそしりをまぬかれないが、そういえば、女子は団体でも個人でも、しょっちゅう海外に出かけてタイトルをとっている。

なぜ女子はそれほど強いのか

ある人の説明によると、それは世界における競争の激しさの差だという。とくに東南アジアにおいて男子に強い相手が多すぎる、云々。

しかし、本当にそのスポーツが盛んになるには、男子が強くならなくてはダメだ。なぜならファンの過半数は婦女子だからだ。バレーや庭球で本当に人気が出てきたのは男が強くなったからだ。

（時事通信　佐藤晃）

皆無に近い科学的資料
スポ研を利用、対策を

――いま、科学的データという話が出ましたが、たしかに、そういう面での研究が遅れているようですね。

D　遅れている、というよりほとんどない、といった方が正しい。

E　バドミントンの上部団体である体協（日本体育協会）にはスポーツ科学委員会があり、競技団体によっては、専門のトレーニング・ドクターを持っている。

F　そのスポーツ科学委員会の研究室にたのめば、いろいろデータ測定もやってもらえるはずだ。

G　ユ杯、ト杯の代表の体力測定すら日本協会としてやっていないのでは、情けない。

A　それだけでない、いくつかの競技団体では、外国選手が来日したとき、彼らの測定もやり、日本選手と、なにがどうちがうか調べ、対策を立てているそうだ。

――少くとも、まずこうした専門家筋と接触をはじめなければいけないと思いますね。

B　いま神奈川県協会と県スポーツ・センターの間で、高校選手を対象に、専門の先生とともに取り組んでいる試みがある。データを「バド界」に紹介しましょう。

強化策もおざなり的
日常の対策こそ大切

――選手強化の分野にふれる話が出てきたので、話題をそちらに変えましょうか。

E　次期ユ杯が、あと一年後に迫ったが、具体的な対策がまだ出ていない。

F　問題はそれ以前にあって前回の優勝いらい、その反省、次期強化策についての真剣な会合をやった話を聞いていないですね。

G　あのとき「三年後には、ちょっと大変なことになるよ」と新聞記者の人が警鐘を鳴らしていた。いま選手層を見ると、実際、その通りになってきた。

A　そう、現役を去った選手が多く、一年後、絶対にこれなら、といえそうな選手が育ってきていない。

B　単に、そのとき〝あり合わせ〟の選手を集めてチームを編成するのなら協会も委員会も不要。国際代表としてふさわしい選手を、日常的に育成する努力がないといけない。

C　監督を決めて、選手を合宿させれば、というのではものたりない。

D　まだ一年あるから、長いといえば長いが、合宿で選手の技術を改良しようと思っても限度がある。

E　ト杯の合宿→敗戦（対インドネシア）がそのいい例だ。

F　合宿をやたらとやるよりふだんからやっておくべきことがいくらもある。

G　めぼしい一人、一人の選手について、体力、技術、精神面あらゆる分野から問題点をとり出し、カルテをつくって、一人一人が、日常練習の場で、そのカルテどおりのことを実行するのが大切だ。

――そのための仕事をするのが、競技力向上委ですね。委員を集め、監督はだれにする、だれを代表にする、ということだけが仕事ではない。

A　ふしぎなのは、海外遠征とか、国際試合のあとで、役員選手が真剣な報告書をつくり、それを協会のしかるべき会議が論議して、次の対策を立てるということが、どうもない。

B　「バド界」に載るからいい、というものではない。行けば行きっぱなしはこまる。

C　こういった分野の開発が進めば、やたらとアキレス腱を切るようなこともなくなる？

D　健康管理に通じますね。先きごろ来日した中国の卓球選手団にも専門医が同行していたほかの競技でもやっている。

強めたい国際上の発言権
世界をリードする気構えを

――国際的に日本が地位を高めていくことも必要ですね。この点はどうですか。

C　日本は女子が世界一。男子もベスト3の一角なのに、国際舞台での発言が少ない。

D　そうだ。日本がいろんなことで主導権をにぎるように持っていってほしい。いつまでも欧米のいいなりになっていることはない。

E　そのためには、日本が問題をつくって、いろいろ提案すること。そのためには、日本からも、どんどん国際会議に多くの人が出ていかなければ。

F　国際問題は担当者にまかせておけば、ではいけないね。それと協会首脳部は語学の勉強をするべきだ。

G　国際問題といえば、中国があるね。世界卓球選手権をきっかけに、にわかに各種競技の交流について話題がとびかっている。

――中国のバドミントンは実力世界一とのウワサもあるようですが。

A　はっきりしたことは、わかっていないが、強い国らしい。おとなりに強い国がいるんだから、できれば交流した方がいいわけだ。

B　政治的な問題がからんでくるから、日本協会が、どう考えるかが、まず問題だ。

C　日本は上部団体の体協の性質上、はっきりしにくいのじゃないか。

D　しかし、中国から先手を打たれて、招待します――といわれたときにこまる。

F　だから理事会なり常務理事会なりで、中国についての基本的な姿勢を論議、打ち出す時期に来ていると思う。

G　共産圏ということで思い出したか、どういうわけか、ソ連や東欧でバドミントンをやっている国が少い。こうした国への働きかけや、オリンピック参加など、日本がリードしたら…

先決、愛される体制づくり
財政問題は活動の基盤

――さきほどから折りにふれてお金の問題が出ているが、やはり、なにをやるにも財政確立が先決です。バドミントンの基盤はあまりに弱い。

A　協会関係者が一致して、お金をつくるんだという考えに徹していないのではないか。できないんだから、いまのままでなんとなくやっていく、というムードに思える。

B　サッカーの年間二億円には比すべくもないが、バドミントンの年間一千万円は、日常業務だけでせいいっぱいだ。底辺拡大の予算もむずかしい。

C　問題は二つある。一つは生み出す努力。もう一つは、少いものを有効に生かして使う、事務費や会議費にお金をかけないですむ方法を考えること…。

――具体的にどうしていけばいいと思いますか。

D　登録料が安すぎますね。ボーリングに一度行く分で登録料の五年分ぐらいは出せるんだからね。

記者の目

バドミントンは実にPRがヘタだなあ、と思う。昨年のくれ全日本総合選手権をはじめて取材した。そして「最高のカードにしては、お客が少ない」と思った。

そういったら先輩に「これでも年々、よくなってきている方だ」と聞かされた。私はテニスの出身だが、国際レベルから見ると、まだまだ、のテニスの方が、観客から支持されている。

「バドミントンは世界的に強いんだから、たまになにか（企画）を取材したい」といったらデスクから「バドミントンは」としぶい顔をされた。

強いのにマスコミに支持が多くないのは、一にも二にもPR不足ではないのか。この点、日本協会は、どう考えているのだろうか。日本の人口の十分の一を占める東京で大きい試合が少ないのもいけない。

いい企画、いいニュース、いい話題をどんどん提供することが、競技発展のもと。このままでは時代に取り残される。（サンケイスポーツ　三ツ谷洋子）



〝先進〟の団体に学べ
まだまだPR体勢は弱体

E　しかし底辺拡大を会員増加につなげることも考えたい。

F　手っとり早いのは、競技会に、大勢のファンに見に来てもらうこと。

G　サッカー、バレーはその点、努力している。

A　学生の大会を除くと、日本協会の有料大会は全日本総合ぐらいだ。バドミントンではお金はとれない、と考えるのはまちがっている。内容がよく、PRすれば来てくれる。三百円で一万人来れば三百万円だ。

――自己資金を生み出すにもPRが必要ということですね。しめくくりに、PRのあり方について。

B　バドミントンは世界一だといくらいっても、周囲がそう認識してくれなくてはダメ。そのために必要なのがPRだ。

C　そうだ。テレビ、新聞、経済界などが喜んで協力してくれる体制ずくりが大事だ。

D　一般企業では、自社製品を売るために、ぼう大な宣伝費を使っている。アマ・スポーツも競争の中で生きているのだから考える必要がある。

E　そのためには、マスコミが取り上げるような活動をしなければいけない。いい企画、いいニュース。海外遠征で優勝しても、マスコミへの報告がなにもない。

F　日本の人口の一割以上が住む東京で、年に一度ぐらいしか大きな試合がないのでは、新聞も関心を持たないよ。

A　今度の夏の全国中学大会でも、テレビ、新聞にどれだけ協力の働きかけをしたか、あやしいものだ。

B　このさい、協会執行部に要望したい。一つは、できるだけひんぱんに、協会事務局に来て、内外の情勢を把握し、事業企画の材料を仕込んでほしいこと。二つは、よその競技団体の活動を充分、勉強してほしいことだ。

C　同感だ。他の競技のことは関係ない、という考え方はこまる。その中に、バドミントンの参考になる話がいっぱいあるはずだ。そして我々、若いものを育ててほしい。

――「バドミントン界」では可能なかぎり、そうした話を入れているんですが、今後とも役員各位に精読をお願いします。

急務〝頂点↓底辺〟の協応策
＝重要化しつつある協会の任務＝
五輪加入の情勢も近ずく

競技力向上委員長
伊藤基記

川端前委員長のあとをうけて、はからずも第二代の競技力向上委員長という、大役を仰せつかり、職責の重さに身を縮めております。佐藤芳朗氏を副委員長として、しっかり私を支えていただくことを条件にお引きうけ致しました。

実のところ勤務地が熊本市という西国の果にあり、上京も思うにまかせない悪条件もあり、年令的にもそろそろ終着駅に近づいておることを自覚し、いわば最後の御奉公のつもりで、出来る限りつとめる所存。この紙上をかりて、全国の指導者の方々の暖かいご鞭撻を賜わりたいとお願い申し上げる心境にあります。

強化の方策については、川端委員長のそれをそのまゝ引き継がせていただき、特別にとりたて、申しあげる程のこともありませんが、世界のバドミントン界が急上昇の兆を示し、とりわけミュンヘン・オリンピックに史上初めてバドミントンがデモンストレーションにとりあげられることが決定され、次期モントリオール・オリンピックではそれが更に拡大されることを暗示するかの如く、カナダが多数の選手を本年三月の全英選手権に送ったこと等を思えば、いよいよバドミントンがオリンピック種目に仲間入りする時代が近づいていることは確かであります。

そのことが、日本のバドミントン界に何を求めるかに思い至れば、ここらで我々も競技力の向上に向って、乾坤一擲、強力な何かを押し進めなければならない時代を迎えているといわなければなりますまい。

底辺の拡大充実

指導委員長として、最後の意見になりましたが、第十九号にも、この底辺の拡大充実については、るる、力説しておきましたが、しかし、この問題はいくら強調してもし過ぎることはないと確信しております。

幼児のラケット遊びがやがて小学生のバドミントン・クラブに発展し、中学の体育の授業やクラブにうけつがれる態勢が各県各地方に樹立されてゆくこの趨勢におくれをとらぬよう〝釈迦に説法〟ながら各県の指導者の方にお願いしたいと思います。

幼年、少年少女の場合は必ずしも体育館の中の大人のプレーの真似をすることでなく、要するに、走力や跳力、懸垂力、投力などと平行して、ラケットのガット面で、球やシャトルを扱う、目と手の協応になれた子供を沢山つくっておくということ

です。

中学の三年の選択教材としてやっと再登場させてもらったことで安心していては大部分の素質ある子供達がどんどん他のスポーツに流出してゆくのを、指をくわえて見ているようなものです。百人の子供のうち、一人でよいから、走力もあり、投擲力もある子供がバドミントンに愛着をもつような、場を形成することに努力が払われなければなりません。

学校の先生方の中に、愛好者が急増しています。これらの先生方とバドミントン愛好の一般の方々が、やる気さえ起してくれれば、必ず芽が見出され、苗は育てられるものと思います。

貴方の周囲に一年に一人でよいから、おじさんのおかげで、お兄さん、お姉さんのおかげで僕は、私は、バドミントンの面白さを知りましたという少年少女をつくって下さいと強調しつづけています。この底辺の拡大は、中学大会によって充実させられることは疑う余地がありません。

シャトルにも問題点

この拡大充実の時代の一つの難点は、シャトルの消耗ということがはっきりしていますからなるべく強くて、正しいとび方をするシャトルを供給しなければならないことは勿論ですが、しかし、いつまでも安かろう、安かろうでは、バドミントンは進展しません。少し高くても、よいものをという気持がでてくることを殺してはいけないと考えております。この問題は指導委員会の分野でもあります。両委員会がこの点で、しっかり連繋を保つことが大切であると痛感しております。

選手選抜だけが仕事でない

頂点の集中強化策

上述の底辺の拡大充実と平行して中・高・大学生、一般のトップに立ち、有望視される選手諸君を集めて、合同練習や、合宿練習が合理的に行なわれ、それぞれの選手に、納得の上で宿題が与えられるように、特に国際級の選手については、本人の日常生活と、試合生活、合練生活との調和について、抜本的な工夫をする必要が痛感されます。

この点は、向上委の委員の方々と、一級選手との腹を割った、真剣な意見の交換と、それに基づいて割りだされた方策の強力な実施が望まれるわけです。競技力向上委としてはその有望な選手諸君がどうすれば、完全燃焼の毎日を送り、フル廻転をしながらも、エンジンの焼きつきを来たさないように、言葉をかえれば、持っている力を充分に発揮するだけでなく、十二分に出せるような場をつくることに最大限の努力を傾注しなければなりません。

その具体的な実施については各方面のご意見を広く深く、勘案することにつとめることは勿論ですが、最終的には、向上委でまとめて、理事長を中心とする、常務理事会に意見を出し、その了承のもとに、強力に実施されねばならぬと考えております。

代表選手や監督コーチを決定することの下案をつくることだけが、向上委の仕事であるとは考えておりませんので、それから先きのことについては、これからの実績を見ていただくより外に道がありません。

重ねて、全国の各県の競技力向上関係の方々のご支援、ご鞭撻をお願いしておきます。

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729（2）3217
	◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03（811）3773
	◎ ナイロン　A級	◎ 綿　B級
（株）寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729（2）3210
	◎ バドミントン・ネット　C検定	
（株）ジイティヤング	本社　大阪市南区東平野町2-25	
	支社　東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03（623）7155
	◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐	
ミセキセット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804（2）0379
	◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A	

ママさんバドミントン

〝底辺〟の普及から
るい社会づくりにもひと役

ママさんはじめ、いわゆる家庭婦人たちの間で、バドミントン熱が、いま、しだいにひろがっている。一億国民の〝総スポーツ化〟というのが、当面、日本の体育関係者の〝合い言葉〟になっているが、その中で、バドミントンが果す役割りは、非常に大きい。

ユ杯、ト杯の名選手を育てるのも、よく考えてみれば、底辺のひろがりが必要だ。母が、親が楽しみを、わが子に伝え、ともに遊ぶところから、バドミントンに熱中する少年少女がはぐくまれる。こうした意味で、ママさんへの普及は、バドミントン〝百年の大計〟であるとさえいえるのだ。

ママさん組織は、現在、まだ自然発生的で、ごく一部の熱心な指導者の力によるところが大きいが、日本協会、地方協会は一日も早く、こうした愛好者に手をのべて、全国的な組織にまで持っていってほしいと思う。

いわゆる市民スポーツの典型として、今回は東京・三鷹市のクラブの例を報告し、関係者の参考に供したい。これを機会に全国から、この種のニュースが寄せられるよう期待する。

かみ合った施設・指導者・熱意
将来は楽しみと勝負の接点に課題
東京・三鷹市の場合を考える

〈レポーター〉秦　浩

昨年末の全日本総合大会最終日、スタンドの一角に陣取り、熱心にメモを片手に観戦している約10名のママさん達をお気付きの人もあったと思う。

このママさんたちは東京都下三鷹市の家庭婦人バドミントン同好会のメンバーで、総合大会に限らず主要な試合には必ずといっていいほど顔をみせる。いわば常連。そこでこのクラブを訪問して、設立の動機や婦人クラブのあり方、問題点など諸々についてたずねてみた。

私の訪れたホームグラウンド市民体育館は、市役所、公会堂、郵便局など市の中枢といえる近代的な建物が整然と林立する三鷹市民センターのうら手、まだ武蔵野の面形を残す雑木林に囲まれた、コンパクトな建物であった。

一歩、中に足を踏み入れると約40名のママさん達が3面のコートいっぱいに拡がって打ち合っていた。そのようすたるや、まさに壮観である。

さっそく、この会の世話役である沢登貞行さん（三鷹市体育指導委員協議会会長）にインタビューをしてみる。

ロビンスとポピーズ　二つもある同好クラブ

――クラブの結成動機は？

現在クラブは二つあります。ひとつはロビンスといい、44年の11月に発足、約45名が加入しています。

このクラブ、もともとはテニスの同好会だったのですが、冬のシーズン・オフを利用してバドミントンをはじめたところ、今ではすっかり主客転倒、みなバドミントンのとりこと化してしまい、45年4月からは正式に三鷹市家庭婦人バドミントン同好会〈通称ロビンス〉と生れ変りました。

またもうひとつは〈通称ポピーズ〉といって、45年の12月に市の主催するバドミントン講習会がキッカケとなって運動の楽しさをおぼえたママさん達が、「もっとつづけてやりたいわ」といって出来たもので現在、約50名が参加しています。

練習日はロビンスが毎週木曜日の午前中、ポピーズが金曜日の午後、双方の交流は毎月第一・第三土曜日の午後に強化練習という名目で行なっています。バドミントンの経験者はほんの数名でほとんどが初心者です。

――運営については？

両クラブとも市の後援で発足したのですが、今では完全な自

全国にひろげよう

〝頂点〟の強化も

健康な市民. 明

特集

主運営のグループです。入会金は二百円、その他月額一五〇円を徴収し、運営費、シャトル購入などに充当させます。市からの援助は体育館代が免除になる以外、一切ありません。

〝井戸ばた談議〟もけっこう

運営はすべて自主的に

このことはむしろ金銭面など市の負担に依存せず、自分達のことは自分達で、という精神を養うとともに、アマチュア・スポーツでは当然そうあらねばならないと思うし、各々の責任感、そしてやる気といった面にも良い結果をもたらしているようです。

――リードしていく難しさなどは？

私はリードするといった意識は全くありませんし、世話役といった方が妥当でしょう。難しさねえ……。みなさん自主的にうまくやっています。

そう、しいていえば、やはり女性の場合は人間関係に多少気を使う程度です。これも話し合う機会を多く持てば解消される問題と思い、毎回、練習後はそろってお茶を飲んだり食事をして気ままに世間話しなどをしていますし、その他、毎月一回、役員会を開いています。

練習法や運営などについて役員がディスカッションをする場なのですが、これは名目だけで、役員にかぎらずだれでも出席することができ、話しも結局は井戸端談議となることが多いのですが、私はそれでいいのだと思っています。

――クラブは今後どういう方向を目指しておられますか？

この会は永く継続していきたい。それには、このこと（スポーツをし、クラブに参加すること）が生活化し、日常の一部となりきってしまうまでにすることです。

「バドの市」にまで発展させたい

そして益々発展させ、三鷹市の母親全体に浸透させて、子供達にも影響を与えることによって、いずれは三鷹市をバドミントンの市になるまでにもっていきたいですね。それがまた、バドミントンの底辺を拡げるひとつの大きな手段であるとも思います。

――バドミントンに限らず、社会体育のあり方についてひとこと

社会体育の振興には①スポーツ施設の完備②施設を中心に人が集まる③自然発生的に同好グループが生まれ、指導者が世話をするといったパターンが理想だと思う。

たまたまバドミントンはこれらがうまくかみ合って今日の姿となったわけだが、どこでもこ



▲沢登先生と元気いっぱいのクラブのママさん達

記者の目

スポーツは〝家族ぐるみ〟という見方がある。親兄弟がやっていたから、自分も、というやつである。

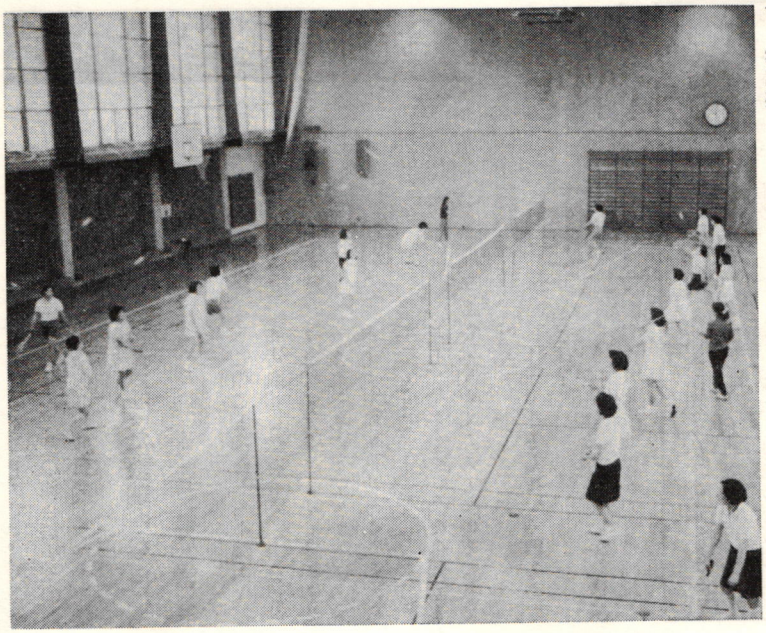
テニスでいうと、歴代のデ杯選手だった加茂、宮城一家をはじめ、石黒、渡辺、みなそうであるし、札幌冬季五輪のスターといわれるフィギュア・スケートの山下一美なども、母娘二代のチャンピオン。

しかし、こうした〝何々一家〟といわれる例の多くには、いわゆる〝英才教育〟の匂いが強い。私はこれを、庶民が楽しみで、明るい家庭生活の一環として、一家が自然なかたちで、スポーツをやる姿を期待したいのだ。とくにバドミントンに――

あえて、小島や高木のような強い選手をつくる布石として、とはいわないが、自然な形で底辺がひろがれば、いい選手も生まれるものだ。ママさんがんばれ。

（東京新聞・後藤忠弘）

明るい地域社会づくり
バドのおかげで〝断絶〟なし



うまくゆくとは限らない。まず第一の問題としてホームグラウンド（体育館）の確保に悩まされるだろうが、私は学校体育施設の開放に望みを託しているのです。

ついでロビンスの会長である岩佐レイさんをはじめ、会員の方々に練習中の手を休めてもらい、家庭婦人という環境にあるみなさんの貴重な意見や体験を語ってもらった。

――子供さんがおられる方も多いみなさん達が、こうした会に参加されるのはいろいろとむずかしく、支障もあると思いますが、その点いかがですか？

「もともとスポーツが好きだったし」「健康にいいわ」「食欲もおきるしネ…ふふふ」「週1回の練習と、おしゃべりが楽しみ」

「確かに子供をどうしようかと思ったこともありましたけれど、それも毎週当番を決めて子供の面倒をみることにしたので解決。のびのびとやれるわ」

「子供が学校でバドミントンをやっているので、それに影響されて私もはじめたの」「私は逆。私に刺激されて子供がやりはじめたわ」「親子、家族の中の共通の話題となっています。親子断絶なんてウソみたい」

「今年は親睦を兼ねて一泊の研修旅行があるの。もっとも、研修は二の次、おしゃべりが主よ。でも、これもバドミントン同好会に入ったから楽しめることよ」

ほしい全国大会協会への希望

「私達は決して大それた考えはないわ、例えば全日本や、都民大会に出て優勝しようなどという…。あくまでも目標は身体づくりとスポーツを通じて人間関係をつくりあげ、明るい地域社会を形成することよ」

「そう思いながらも、つい欲が出ちゃって。日本協会でママさん大会なんて開いてくれないかしら、とも思うわ。市では昨年から市民大会に〝母親の部〟ができたの」…

× × ×

このクラブを訪問して私は、地域スポーツ、社会体育の本来の姿を見い出した気がする。

5月13日には、全日本チャンピオン湯木博江選手が、コーチがてらに、このクラブを訪問する。日本中がこのようなママさんでうずまったら……。きっと可能なことだと思う。この三鷹市家庭婦人同好会は、水に投げた一片の石で、その輪は限りなくひろがっていく気がしてならない。

ママさんパワー、バドミントンに進出。そんなキャッチ・フレーズがピッタリの印象を受けた。

関東団地連盟もスタート
母と子の共通の広場に

結成大会開かれる

〝七一年は社会体育の振興に取り組む〟という日本バドミントン協会と、全国に55万戸という莫大な戸数を誇示する住宅公団に在住のみなさんに、朗報！

このほど、埼玉県鶴瀬団地に住む谷川進さん（市会議員、日本住宅公団軟式野球連盟会長）らが中心となって、関東地区団地バドミントン連盟が結成され、その第一回大会が、3月21日に東京・台東体育館で一都三県（東京・神奈川・千葉・埼玉）から約80名の参加を得て開かれた。

まだ第一回のことなので広報的な面で徹底できず少人数の参加であったが、それでも住宅公団総裁から入賞者に賞状とメダルが贈られるなど、今後の発展が大いに期待される。

主唱者・谷川さんの話しによると――

団地というのは典型的なベッド・ダウン。住民のうち男性の大部分はサラリーマン。そこでこれらの地域の昼間は、母と子だけ。電化生活の影響などで余暇の生まれた婦人達は、けいこごとや、スポーツに目を向ける

◆ ママさんの練習日記から ◆

4月×日　シャトルコック18つ目は二、三才位のお子さんが市の社会教育課より結成祝として寄贈。

・準備運動その他は自主的にすること。

・出席簿は出入口の近くにおき、来た人から印をつけること。

・練習中の幼児の世話は休憩中の人がすること。

4月×日　頼んでおいたユニフォームがとどいた。七百円也。胸にロビンスとチーム名がはいっており、清潔な感じ。M判よりL判に人気あり。

5月×日　四中の神田先生より話を聞く。体力とは等々、非常に勉強になった。市内の同好クラブが多数あり、改めてスポーツの一般普及の大なるをおどろく。また会なかばで私語の多いことにも一驚する。お互いにもう少し一考の要を感じた。

6月×日　ルールをまだ知らない人もいて、その人達が相手のコートになった場合やはりものたりなく感じる。なまいきなようだが、同じ位の人達とやりたい。

きょうはあぶない場面を二度見た。ひとつは赤ちゃんを赤ちゃん用のイスに座らせて体育館のすみに立てかけてあったのが倒れ顔を打ってしまうし、ふたつ目は二、三才位のお子さんがお母さんから離れなくて一緒にコートに入っている。「あぶないからこっちへいらっしゃい」と呼びにいくと、お母さんの方が「いいんです、この方が」という。

7月×日　練習方法だが気の合った同士がペアを組むのもよいが、上手な人と初心者と組んで練習していけば、自然と初心者の腕もあがるしルールもわきまえてゆくのではないか。

7月×日　良い試合を見たいということと同感。なにか考えてみたい。

11月×日　家からテクテク40分かかって歩いてきたので、これで準備体操終り。「バドミントン」という雑誌にいいことが一つ書いてあった。ハイクリヤーが基本で、スマッシュもドロップも、これをマスターすれば自由自在だということ…。

11月×日　バドミントンに出かける日と思うと身も心も軽くなる。先輩の方々にお願い——全くの受け身で精一杯がんばっている我々と対する時に、どうか力を抜くことなく（つまりなげやり）対戦してほしいと思います。

わけです。

今のところ婦人のスポーツといえば、バレーボールが一番人気。しかし、その次にくるのがないのです。最近ボーリング熱がおこって来ていますが、私はバドミントンもやりようによってはバレーボール以上にのびると思い、今度こういったことを企画してみたのです。

この4月上旬には全国団地スポーツ協会を結成して、関東、関西、九州、中部などに各種目別の組織をつくる手はずになっています。

× × ×

大阪でもママ熱さかん
三市町親善大会開く

春休みの三月三十一日、京都府乙訓郡長岡町、大阪府豊中市、同茨木市のママさんチームが茨木市大池小学校の体育館で、親善試合を実施した。

あいにくの雨。ハダ寒い日だったが、子供の手をひいたお母さんたちが、ラケット片手に続々とつめかけ、一日中シャトルを追って楽しんだ。

長岡町のチームは、昭和二十九年の北海道国体で、近畿地区代表として活躍した樟蔭東高OG木村さん（旧姓・辻）が中心。毎週水旺日に小学校の体育館で練習しているだけあって、なかなか、うまい（八名参加）。

豊中市のチームは月一回、バドミントン教室のおりが練習日。三十一年の全国高校（仙台）の福井県代表・大阪府立大OGの坂田さん（旧姓・瓜生）がいて、なかなかまとまっていた。（六名参加）

往年の名選手

茨城市は豊中と同様、月一回の教室で練習。まったくの素人ばかりなのだが、バレーボールなどの経験者が多いだけに、かえらだもしっかりしていて、ねばりが強かった。（八名参加）

もちろん、珍プレー、迷プレーもあったが、いずれも拍手のマト。往年の名選手のプレーもまた、現役時代そのままのすばらしいもので、十数年たっても本当に変わらない、とつくづく思った。

ちなみに、三チームを通じての最高年齢は（失礼）45歳だったようである?!

試合はダブルスのみの2ゲーム・マッチ、通算ゲーム・ポイントで争われた。結果は、▽豊中7－1茨木▽長岡8－0茨木▽長岡5－3豊中

（日本協会理事、大阪府協会理事長・青木昭二）

当日、会場には朝10時から5時間ぶっつづけでコートにはいっている少年・少女達も多かった。多摩平団地から来た市民友の会子供会のみなさん達で、会の責任者氏はこう語る。

問題やはり施設の確保

「男の子には野球というものがあるが、女の子には適当なのがないので、バドミントンをやらせてみようと思い、連れてきてみたのです。子供会には現在、男女約三百名近くが入っています。

バドミントンは子供達にとって手軽で結構楽しめるスポーツで人気がありますが、発展の難点はやはり施設（体育館）の問題でしょう。これさえ解決されれば（たとえば学校体育館の開放や、公共施設の増加など）爆発的に普及・発展するでしょうね。

私のところもこれを機会に是非バドミントンを広めようと思います。一流の選手にきていただいて、模範演技など見せてもらえれば、子供達は飛びついて興味を示すのではないかと思います。」

住民のための，住民による
〝スポーツ・クラブ〟
―― 西ドイツを例として



‖ 日本スポーツ少年団 ‖ 増田靖弘

◉はじめに

西欧では、町や村、地域社会にあるスポーツ・クラブが人びとの体育スポーツの場であり拠点となっています。

それは、わが国のスポーツ施設などとは違って文字どおり地域住民の「クラブ」として百数十年の伝統をもち、住民の手で育てられてき、コミュニティに強く根をおろしているのです。しかも同時にそのスポーツ・クラブが、コミュニティの形成・維持に、大きな役割を果たしてきているともいえるのです。

もちろん、西欧とひとくちにいっても、各国それぞれスポーツ・クラブの成立のしかた、在りかたには差異があり、国々の社会情況や体育スポーツの在りかた、国民の意識構造や生活の違い等が、スポーツ・クラブの内容・形態に特色を生んでいます。ここでは、西欧諸国のなかでも、とくに〝国民スポーツ〟の振興に国民的エネルギーを燃やしている西ドイツの現状を中心に、スポーツ・クラブの紹介をしてみたいと思います。

1・スポーツ・クラブの生いたち

西ドイツのスポーツ・クラブ＝Sportverein（Verein は組合という意味を持っています）の起源は遠く一九世紀初頭、ヤーン（一七七八年～一八二五年）の創始による〝体操〟のクラブに遡ぼることができます。

当時、小国家に分れ、統一国家を形成していなかったドイツは、フランス革命とナポレオンの侵略によって国家統一の気運を醸成されました。ヤーンはその国家主義者の有力なひとりであり、フィジカル・フィットネスの重要さを国家的見地から認め、体操によるフィジカル・トレーニングの推進に努めたのです。

そして〝体操〟クラブが生み出され、合法的存在とするための努力が、クラブを組織した人たちによって払われ育って行きました。

一九世紀末になると、イギリスに育った〝スポーツ＝Spiele〟がドイツに入ってきました。そして新しいタイプ、シュピーレのスポーツ・クラブが生れました。球技やその他さまざまなスポーツのクラブが二〇世紀初頭には続々誕生し、各地の地域に育ってきたのです。

このような創設から育成の時期、スポーツ・クラブの設置や施設・運営の経費はすべて民間の地域住民の手で行なわれました。会員は会費を支払い、豊かな人たちからは寄附金を集め、土地を買い体育館をつくり、施設を設けたのです。いわばスポーツをやろうとする関係者の努力が、無からすべてを始め、有を生み出し続けたのです。現在もスポーツ・クラブの運営に対する、基本的な姿勢は当初と変ってはいません。

2・スポーツ・クラブの現状

一九六九年現在、西ドイツには三八、二八四のスポーツ・クラブがあります。全国平均で人口約一万五千人に一つということになります。一五年前の一九五四のクラブ数は、二三、〇七三ですから、一五年間に約一・六倍以上も増えたわけです。

スポーツ・クラブの会員数は、六九年現在九、五五五、二七〇人で、五四年の三、七三九、八三八人から二・六倍以上の増加ぶりです。

これら、スポーツ・クラブのうち、四〇パーセント～五〇パーセントは、一〇〇年以上の伝統をもつものです。スポーツ・クラブの名称には、例えば〝一八六〇年・ミュンヘン・スポーツ・クラブ〟といったように、設立の年号を入れたものが多くみられます。

スポーツ・クラブの規模は、地域や競技種目等によって大小さまざまです。全会員数で割ったひとつのクラブの平均会員数は、二七〇名あまりとなります

が、五〇人までの小規模のもの（ひとつの競技種目を行なっているクラブに多い）から、五千人～七千人くらいのメンバーという大規模なもの（一〇～二〇の種目を行なっている）まで、規模の差が広くみられます。一般に多いのは一〇〇人～二〇〇人程度のクラブですが、スポーツの種目によっても相当の違いがあります。

施設もさまざまで、公共施設や学校施設を利用し、クラブを開設しているものもあれば、国際級の競技が開催できるほどの競技場をもっている大クラブもあり、土地施設などの資産を所有するクラブから、体育館ひとつを貸りているものまであるわけです。

なお、体育の問題は共同社会における、コミュニティの問題であるという考えかたが広がり中央・地方政府が体操・スポーツの条件整備に務め、ゴールデン・プランによる施設の設置がすすんでいて、現在スポーツ・クラブの九〇パーセントくらいは、公共施設を全面的に、あるいはそのプログラムの一部で利用しています。



体操のスポーツ・クラブのユーゲントのコース

3・会員と組織

登録クラブ＝Eingetragener Verein（E.V）の設立には、七人の代表者がいります。これは法律によって規定され、州自治体に登録することにより法人組織としての法的基礎が与えられます。登録をしないクラブは、プライベイトのクラブと呼ばれています。

スポーツ・クラブへの加入は、個人の自由意志で行なわれます。青少年の場合は保護者の承認が必要です。メンバーの年齢は、スポーツの種目によって違いますが、体操のクラブなどでは、三歳くらいから参加できますし、八〇歳くらいの老人も加入しているクラブもあります。

人びとは、自分の愛好するスポーツ、自分に適したスポーツを選び、地域にあるスポーツ・クラブに自由に参加します。モータリゼーションの発達は、少し離れた地域のクラブへの加入も増々可能にしています。

入会時には、入会金が必要です。これもクラブによってその額が違いますが、青少年（ユーゲント）と成人によっても差があります。メンバーシップを保持するには、会費の納入が前提となります。会費もクラブごと、種目ごとに相違があり、一概にはいえませんが、最低月額青少年一マルク（一〇〇円）、成人三マルク（三〇〇円）が必要で、一〇～二〇マルクというクラブもみられます。また年額で決めているところもあります。

これらの入会金、会費が、スポーツ・クラブ運営の財政上の基盤になっています。施設の維持・管理費、管理者や指導者の人件費、用器具の調達・維持費等、クラブの運営には会費の大部分が使われます。そして、メンバーの負担を基本として、自治体からの補助金、有志・後援者の寄附金等がプラスされ、クラブの財政が維持されています。当然、スポーツ・クラブにとっては、そうした経営の問題が充分検討されていることが必要となるわけです。

なお、メンバーが納める会費のうち、一〇パーセントが州のスポーツ連盟に納入されます。それによって全クラブ員に傷害保険が適用される仕組みになっています。

州のスポーツ連盟は、スポーツ・クラブからの会員の納入金を基本に運産されています。そしてさらに一年間に会員一人一〇ペニヒ（一〇円）が、州連盟からドイツ・スポーツ連盟に納められ、それがドイツ・スポーツ連盟の運営費にあてられるのです。

各スポーツ・クラブは、市およびクライス（郡に相当する）ごとに連盟をつくり、さらにそれらが集まり州ごとの連盟を組織しています。同時にスポーツ・クラブは競技別の連盟も結成しており、ひとつのクラブは地域（クライス・州）スポーツ連盟に加入するとともに、競技別団体にも加入しているわけです。

こうした十一州十五地域連盟と、四〇競技別連盟によって、ドイツ・スポーツ連盟が構成されており、全ドイツのスポーツを組織化しているのです。そしてその基盤と構成単位は、あくまで地域のスポーツ・クラブにあるわけです。

ちなみに、クラブの会員には、会員証が交付されます。また、入会時には健康、体力診断が行なわれ、スポーツ、健康手帳が交付されるクラブも多くみられます。

（おことわり） この記事は「月刊国立競技場」に掲載されたものを、とくに転載させて頂いたものです。

× × ×

ユーバー杯の前主将、高木紀子さんが、このほど東海女子短大の教職にピリオドを打って上京、出版社「弘文堂」の編集部に入社した。

高木さんは、さきの全英で女子複に優勝、来年のユ杯にも、「お役に立ちたい」と大張り切り。夜間、母校の日女体大で湯木博江選手と練習している。



▲羽田から出発する一行、左から相沢、竹中、湯木、高木、小島、栂野尾

今春の海外遠征は、すべり出しの全デンマークでの好調さにもかかわらず、ヤマ場の全英選手権では、意外の不振に終わった。

男子勢は早めにくずれ、女子も竹中が故障で、湯木はベスト8、高木が準決勝で敗退し、過去〝二連勝〟の金字塔が、もろくも消え去った。

わずかにベテラン高木が湯木と組んだダブルスを制し、さらに全カナダ、全米等でも健闘したのが光っただけ。今後に問題を残した。（遠征詳報は次号で収録します）

全英選手権（第61回）は三月二十四日から二十七日まで、ロンドン郊外ウエンブレーで開かれた。

男子の日本は、シングルス三回戦で小島がボショウ（西ドイツ＝全デンマークでストレート勝ちした相手）に敗れた。

また、女子シングルスはスウェーデン、デンマークの北欧勢ががんばり、最後はツェドベリ（スウェーテン）がベルクルント（デンマーク）をくだして王座をものにした。

ダブルスは竹中・相沢組が準決勝でベテランのハシュマン夫人組に敗れたが、高木組が仇打ちに成功、日本女子として大会史上初めてこの種目を制した。

また、男子ではハルトノがデンマーク、全英、全カナダをとり（全米は同じインドネシアのムルヤジに敗れる）強味を発揮したこと、ユ杯を前に欧州女子が台頭したことは考えさせられた。

◆男子シングルス

▼三回戦

ボショウ（西独） 2 (15—8 / 15—10) 1 小島一平
ブリ（デ） 2 (15—15 / 15—4) 0 栂野尾昌一

◆男子ダブルス

▼二回戦

ブラウン メイワルト（西独） 2 (15—15 / 3—15 / 15—8) 1 小島一平 栂野尾昌

◆女子シングルス

▼一回戦

カトモア（カ） 不戦勝 竹中悦子

▼二回戦

バーネコウ（デ） 2 (11—11 / 11—11 / 11—5) 1 相沢マチ子

▼準々決勝

ベルクルント（デ） 2 (11—11 / 11—2 / 11—9) 0 湯木博江

▼準決勝

ツェドベリ（スウ） 2 (11—6 / 11—5 / 11—5) 1 高木紀子

◆女子ダブルス

▼準決勝

ジルクス ハシュマン（米） 2 (15—15 / 15—9 / 3—0) 竹中悦子 相沢マチ子

▼決勝

高木紀子 湯木博江 2 (18—15 / 15—13 / 10—0) ジルクス ハシュマン

【女子複】

1961	ハシュマン：ピアード（愛）
1962	ハシュマン：クリステンセン（D）
1963	ハシュマン：ピアード（愛）
1964	ヨルゲンセン：ラスムセン（D）
1965	ヨルゲンセン：ストランド（D）
1966	ハシュマン：ピアード（D）
1967	リートフェルト（H）：ストランド（D）
1968	ミナルニ：ケスチア（I）
1969	ボクソール：ウェトナル（英）
1970	ボクソール：ウェトナル（英）

【混合複】

	コベル：ソンダル（D）
	コベル：ラスムセン（D）
	コベル：ラスムセン（D）
	ジョーダン：ブリチャード（英）
	コベル：ストランド（D）
	コベル：ストランド（D）
	アンデルセン：ストランド（D）
	ジョーダン：パウンド（英）
	ミルズ：ペリン（英）
	ワルスー：ハンセン（D）

▼▼速報▲▲

タイトル一つ女子複（高木・湯木）だけ

＝全英で日本勢、意外の不振＝

カナダ，全米では女子が単複に面目

◆カナダ選手権（4月2～4日・モントリオール）

◆男子シングルス

▼準決勝

小島一平 2（　|　|　）0 マクドンネル（カ）

▼決勝

ハルトノ（イ） 2（15―15―2―6）0 小島一平

◆女子シングルス

▼準決勝

高木紀子 2（11―12―11―8）0 相沢マチ子

湯木博江 2（11―11―3―7）0 竹中悦子

▼決勝

湯木博江 2（11―12―9―0）0 高木紀子

◆女子ダブルス

▼準決勝

高木紀子・湯木博江 2（15―15―12―4）0 シルビン・ロザリア



▲大会史上初の女子ダブルスに優勝、トロフィを手に本田会長と（左）高木（右）湯木選手

◆全米オープン選手権大会（4月11～14日・ラスベガス）

◆女子シングルス

▼準々決勝

湯木博江 2（11―11―2―5）0（米）ハイン

高木紀子 2（11―11―0―0）0（米）マイエス

▼準決勝

湯木博江 2（11―11―3―3）0（マレーシア）アン

高木紀子 2（11―11―6―1）0（マレーシア）ウン

▼決勝

高木紀子 2（11―11―5―9）0 湯木博江

◆女子ダブルス

▼準々決勝

高木紀子・湯木博江 2（15―16―6―1）0（米）シクリチ・ソーダー

▼準決勝

高木紀子・湯木博江 2（11―15―15―3）1（カナダ）ニルソン・ロリック

▼決勝

高木紀子・湯木博江 2（11―15―6―2）0（米）マーシャル、オニール

相沢マチ子・竹中悦子 2（15―15―12―4）0

▼決勝

高木紀子・湯木博江 2（乗権）0 相沢マチ子、竹中悦子

（注）D＝デンマーク、M＝マレーシア、I＝インドネシア、S＝スウェーデン、愛＝エール

〔最近十年間の優勝者〕

	【男子単】	【男子複】	【女子単】
1961	コプス（D）	コベル：ハンセン（D）	ハシュマン（米）
1962	コプス（D）	コベル：ハンセン（D）	ハシュマン（米）
1963	コプス（D）	コベル：ハンセン（D）	ハシュマン（米）
1964	ニールセン（D）	コベル：ハンセン（D）	ハシュマン（米）
1965	コプス（D）	N・B・ビー：T・Y・カン（M）	スミス（英）
1966	T・A・ファン（M）	N・B・ビー：T・Y・カン（M）	ハシュマン（米）
1967	コプス（D）	ボルチ：コプス（D）	ハシュマン（米）
1968	ハルトノ（I）	ボルチ：コプス（D）	ツェドベリ（S）
1969	ハルトノ（I）	ボルチ：コプス（D）	湯木博江（日）
1970	ハルトノ（I）	パヒァ：ペテルセン（D）	竹中悦子（日）

北から南から

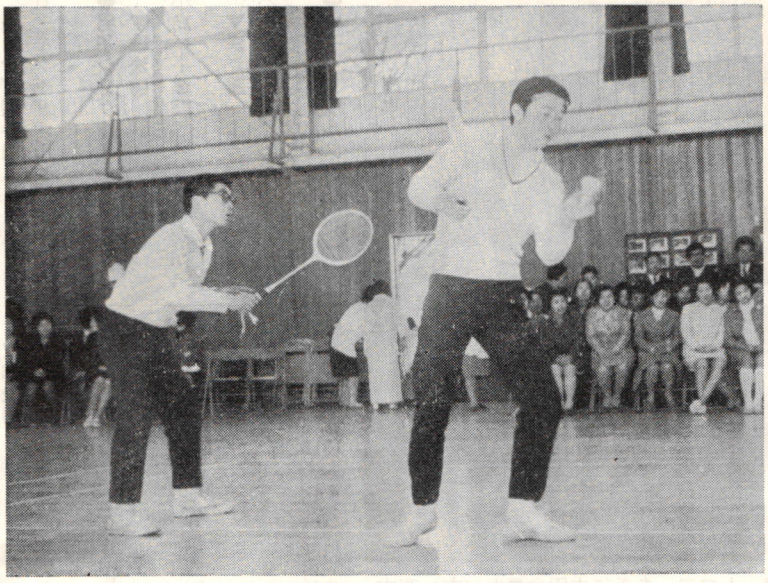
小学校（千葉県柏市）でエキシビション

体育館落成の記念式に　PTAや議員のおえら方もびっくり

さる二月六日、千葉県柏市の市立第一小学校体育館落成式エキシビションとして、本協会より五名を派遣しバドミントン競技の普及・発展の一助とした。

本協会派遣会員は次の五氏。

岡村英男（本協会常務理事）
関　一誠（早大体育局助手）
木戸純一（日体大三年）
門間幹雄（日体大三年）
谷口　寛（立教大二年）



▲PTAのママさんを前に模範試合の公開

柏市立第一小学校には、以前からバドミントンクラブができているが、正しい競技規則や審判法を知らずにやってきていたらしい。指導する先生方も、指導法がわからず、校庭の真ん中にネットを張ってコートを作り風が吹きすさぶ中で児童達に教えていたようだ。

年々人口が増えている柏市に未だバドミントン協会がないのもその一因で、わずかに柏日体高校にバドミントン部があるだけ。千葉県の県民大会（市郡対抗の団体戦）に、今まで一度も出場していないそうだ。

先生方の話しでは、これから体育館で児童クラブの活動をさせられるであろうし、協会からいただいた「バド界17号」をよく読んで、バドミントン技術の向上にもつとめたいとのこと。

当日、市の役員・議員、PTA役員など三百名ほどの観客がほとんどはじめてバドミントンをみて、そのスピードに驚嘆していたようだ。

協会も今後どしどしこういった機会を増やすようにしたい。

（岡村英男）

どう両立させる勉強と練習
悩む読者の投書から・・・

私どもの松江南高は、まだ創立十年。クラブ活動は活発ですが、県下でも指折りの進学校であり、勉強とクラブ活動の両立で皆が苦しんでいるのです。

幸いにもバドミントン部ではいまだかって退部者が出ていません。真にすばらしいと思う反面、はたして勉強は、というと簡単に解決できていないと思います。これだけの説明では、うまく説明できませんが、ほかの高校でも同じ悩みをかかえている人も多いと思うので、ぜひ一度「バド界」で取り上げてほしいと思います。

でも私たちは、高校時代になにかを残すため、それをバドミントンに託し、せいいっぱい自己の限界へ挑んでいます。一日に四、五時間しか眠っていないものもいます。皆なへたですがバドミントンが好きなんです。

（島根県松江市・豊島修）

編集部から　スポーツと勉強の両立は、いつの時代でも悩みのタネ。大変いい提案なので、ぜひ近い号で取り上げましょう

■一流校の練習なども紹介してほしい

やっと「バド界」手に入れました。私どもの学校はコーチがいませんので、すべてがタメになり喜んでいます。

さて、私どもにはコーチがいないので、頭の痛い問題がいくつもあります。一流校の練習のようすなどを紹介してもらえるとさいわいです。また、小島一平さんのような一流選手の歩みなどものせてほしい。

（北海道苫前商・川中二千郎）

編集部から　了解しました。

〝こんなうれしいことはない〟
笑いっぱなし、小島選手結婚





全日本チャンピオンの小島一平選手が、四月二十九日の天皇誕生日に〝相思相愛〟の仲だった土谷幸恵さんと、勤務先きのヨネヤマ・ラケット社長・米山稔氏ご夫妻の媒妁で結婚した。

写真を見ても、よくおわかりだろうが〝バドミントンの鬼〟といわれるほど、プレーに仕事にファイト満々、きびしい小島選手も、この日ばかりは、始終、表情がゆるみっぱなし。女性の力の偉大なることを、参列者に痛感させた。

どういういきさつで二人が知り合ったかは、女性週刊誌ではないから、根ほり葉ほり質問するのをやめるが、ご当人がちょっぴりもらしたところでは「社用で北海道・札幌に行ったとき食事をしにレストランにはいりたまたま隣席にいた土谷さんに〝所を聞いた〟のがきっかけとか。消息通いわく「彼女が美人でなかったら、モノを聞いたりしなかったろう?!」ともあれ今後とも〝打倒〟ハルトノめざし、がんばってネ。

好きなタレントは長島と青江三奈
＝競輪選手（プロ）の意識調査から＝

好きなタレントは巨人の長島と青江三奈――たまには、バドミントン以外のスポーツのお話しも、ひとつお読み下さい。

ここに紹介するのは「ワールド・ジャパン社」が日本自転車振興会の依頼で、全国の競輪選手三千七百人を対象に行なったアンケートの結果だ。

いわば競輪選手の〝人間像〟を浮きぼりにしようとしたのがねらい。調査は4項目。みなさん自身なら、どう答えるか、心の中で比較して読まれるのもまた一興だろう。

【質問1】もし生まれ変ったら、どの職業を選ぶか――①競輪選手②プロスポーツ選手③サラリーマン④実業家⑤政治家⑥商人⑦技術者⑧パイロット⑨医者⑩公務員

これが回答の多い順序。生まれ変わっても同じ職業に、というのが1位とは、やはり自信と誇りの現われか。なお調査対象となった選手は17歳から60歳、年収平均三百万円、最高で約千七百万円だ。

【質問2】どんなエンギをかつぐか

①塩を使う②神仏に祈る③番号（数字）④新品を嫌う⑤ゲンのよかったものを使う⑥女房と仲よくする⑦勝ったときと同じ行動をとる⑧ものの着方の順序⑨出針、刃物をさける⑩尾頭つきの魚をたべる。

この項は、読者の皆さんにも興味あるところだろう。スポーツ心理学的に見ても面白い。

【質問3】好きな男性タレントをどうぞ

①長島茂雄②三船敏郎③王貞治④北島三郎⑤村山実⑥勝新太郎⑦高倉健⑧森繁久弥⑨石原裕次郎⑨沢村忠

【質問4】好きな女性タレントをどうぞ

①青江三奈②美空ひばり③水前寺清子④藤圭子⑤池内淳子⑥都はるみ⑦ちあきなおみ⑧江利チエミ⑨辺見マリ⑩若尾文子

〃　〃　〃　〃　〃

北から南から

N ↑ S

訂正　第17号「目で見る技術講座」特集号で間違いがありましたので、おわびとともに訂正いたします。

これは、当方もうっかり、読者からの疑問提出でわかったもので〝ヘアピン〟の⑤は⑦のあとに来るのが正しい順序、つまり④⑥⑦⑤となります。



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ
テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余か国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで



エリートの攻防
第5回社会人・学生対抗から

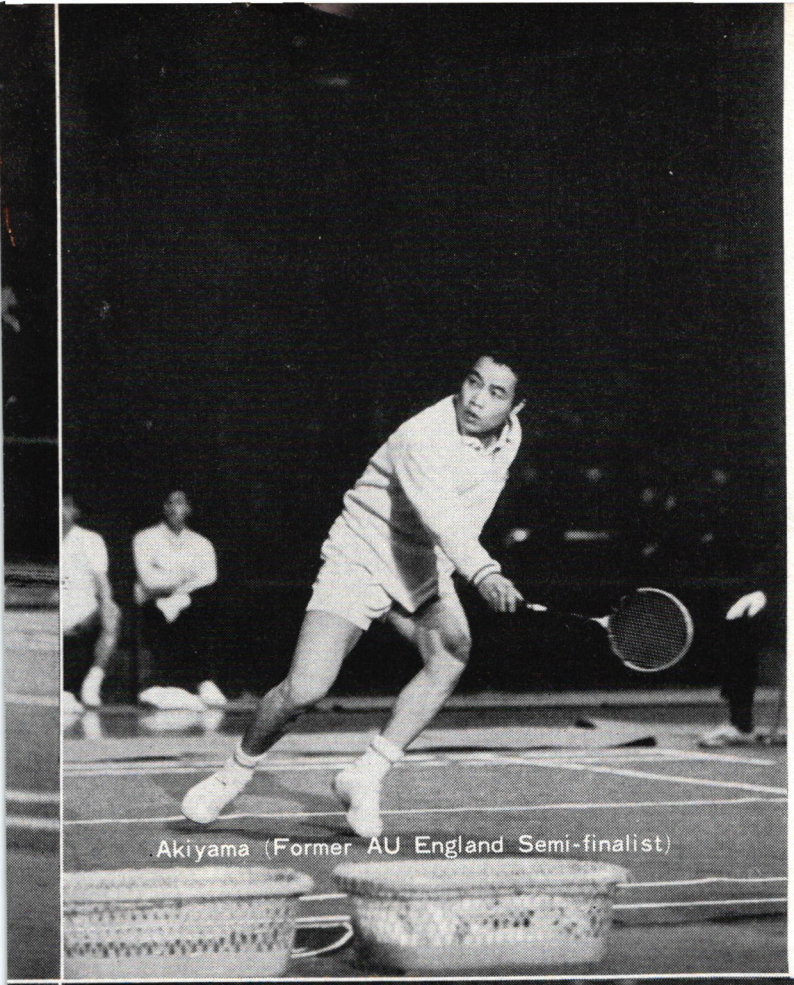
The 5th Men's Graduates vs. Students Matches Feb. '71, at Yoyogi Attached Gym., Tokyo

〈男性的魅力〉

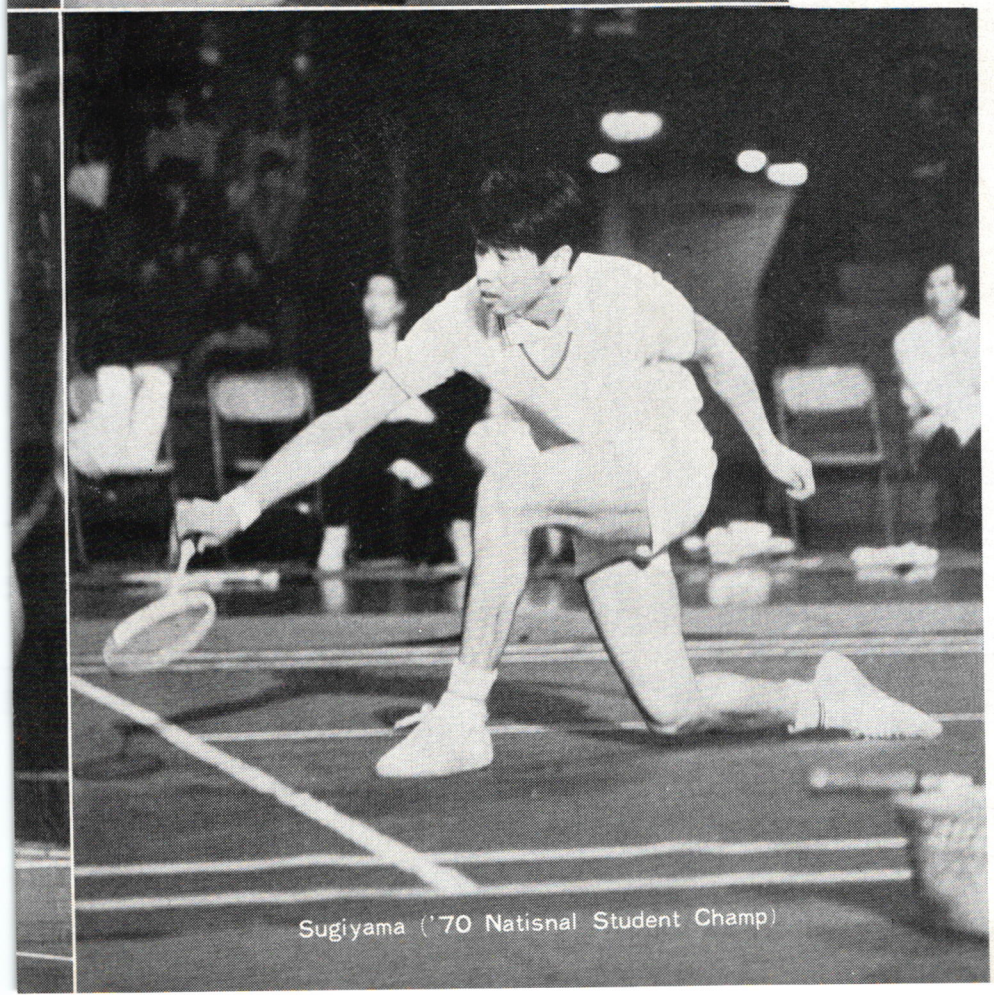
第五回　社会人・学生対抗は予想外に学生のイキがよく、圧勝した。

しかし、勝負はともかく、ここに登場した第一線選手たちは、いずれも〝男性的魅力〟にあふれている。

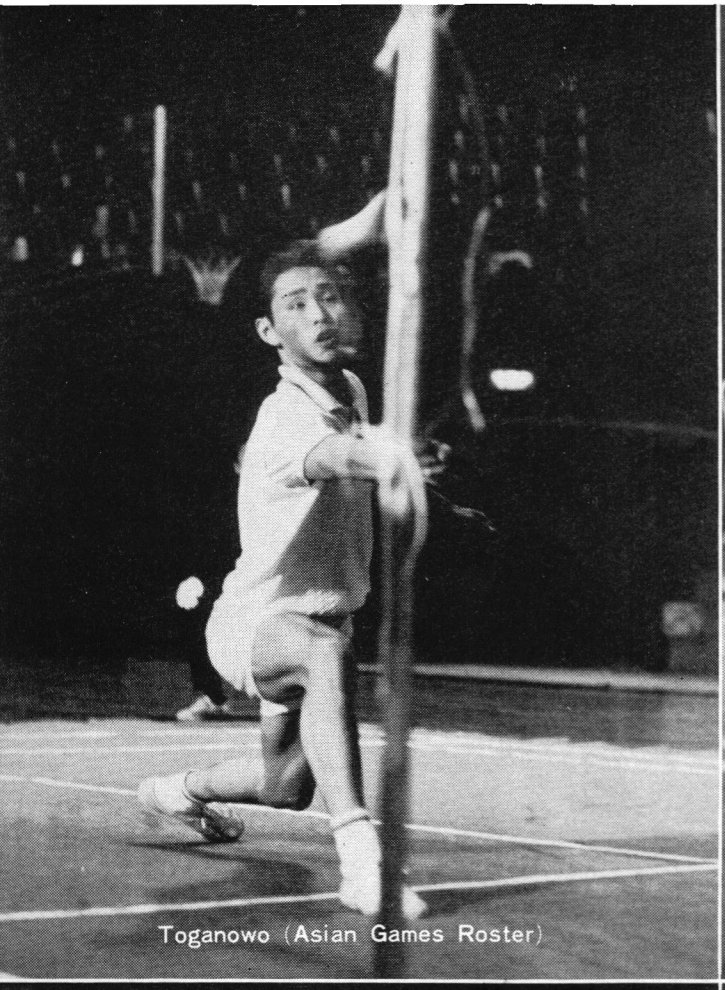
ウーマン・リブやら女性上位時代とやらで、バドミントンもご多聞にもれず、女子が盛名を誇っているが、この写真を見て、またバドミントンにあこがれるファンがふえるかも……。



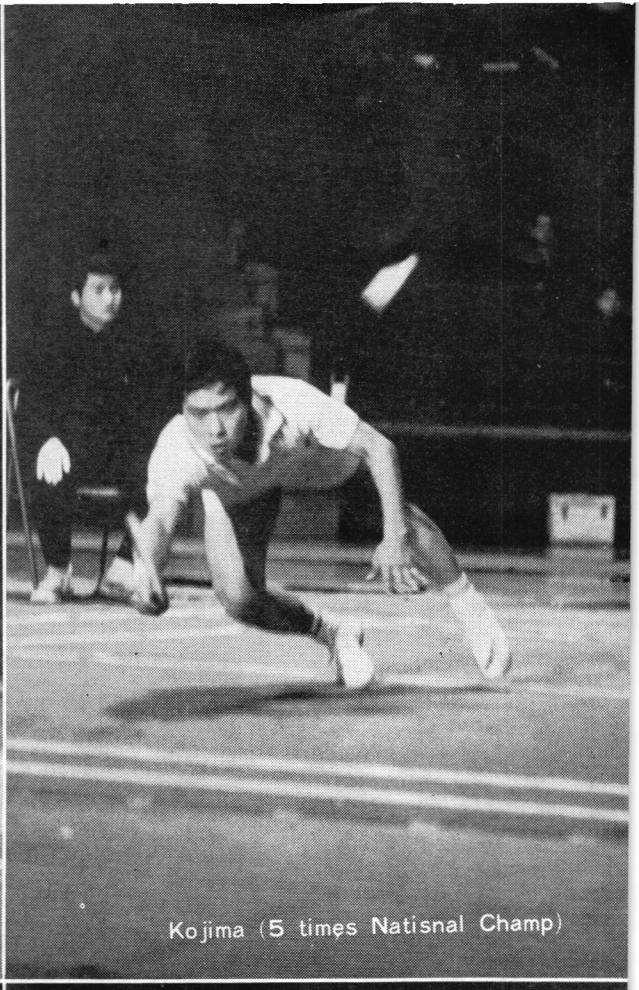
Akiyama (Former AU England Semi-finalist)



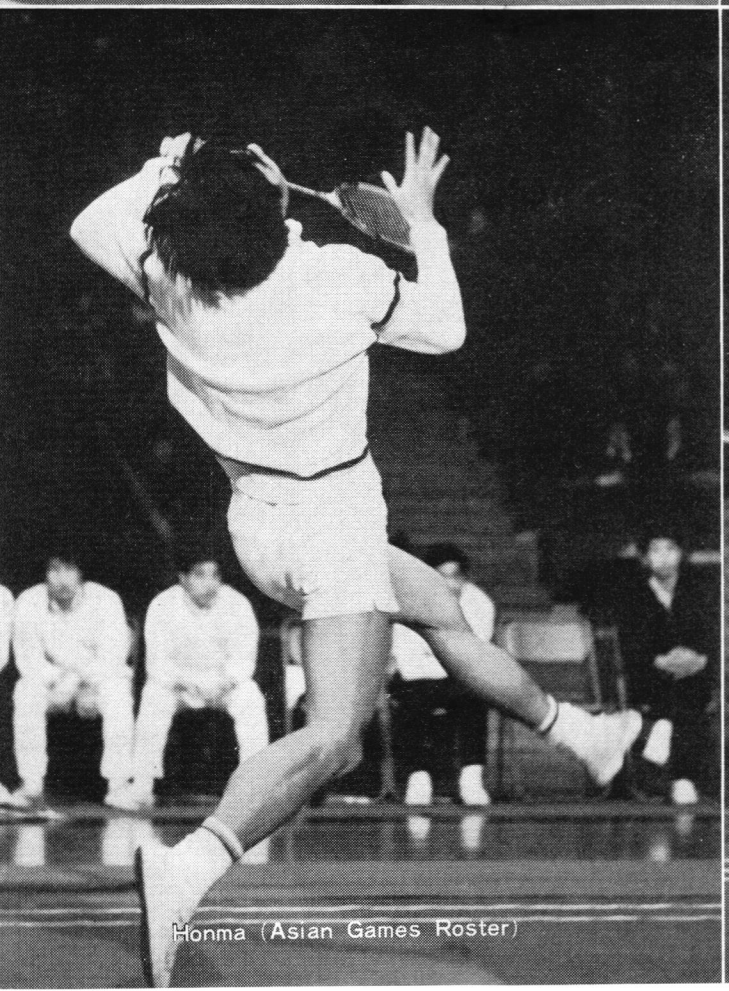
Sugiyama ('70 Natisnal Student Champ)



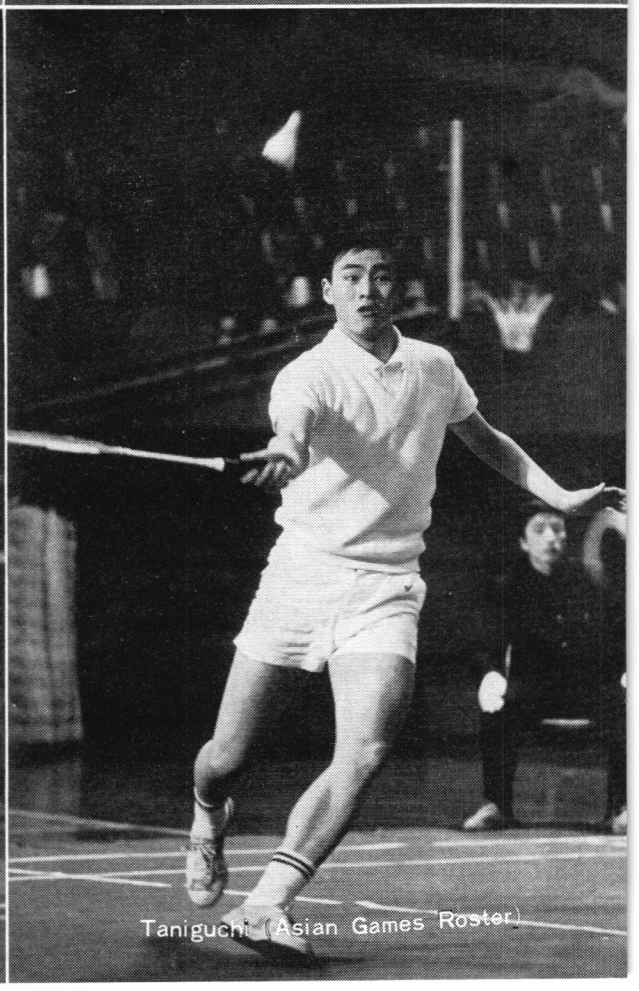
Toganowo (Asian Games Roster)



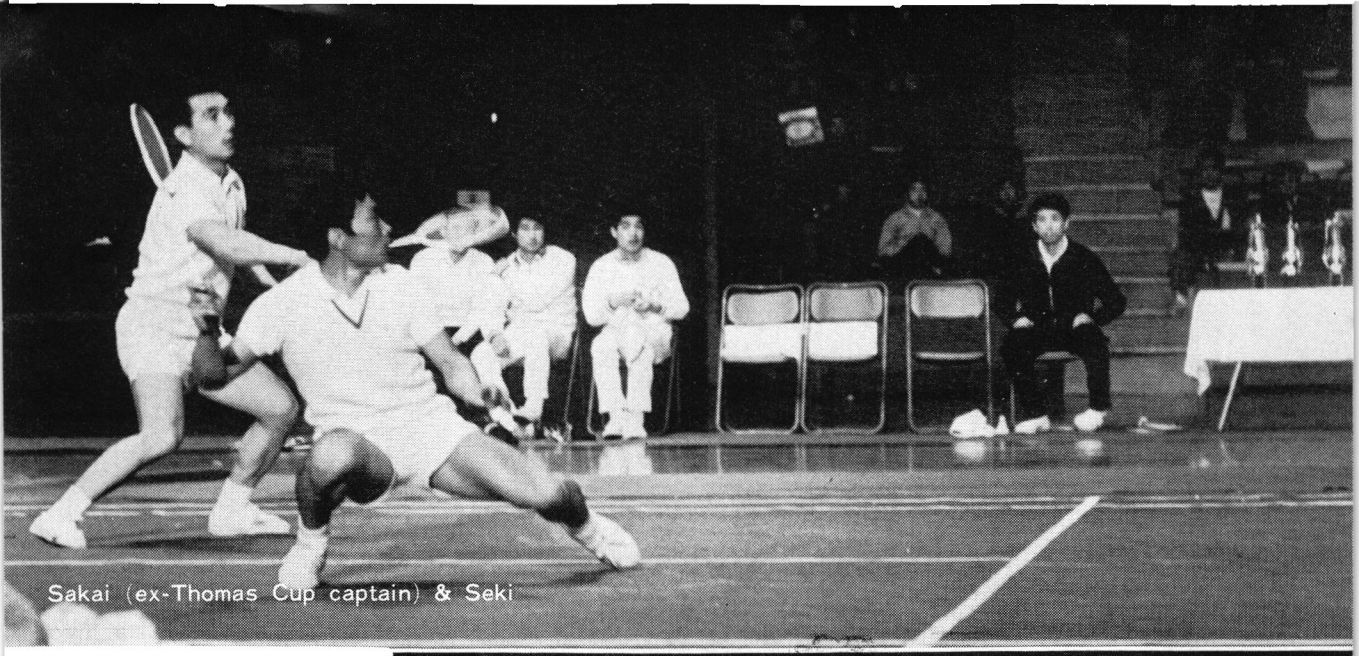
Kojima (5 times Natisnal Champ)



Honma (Asian Games Roster)



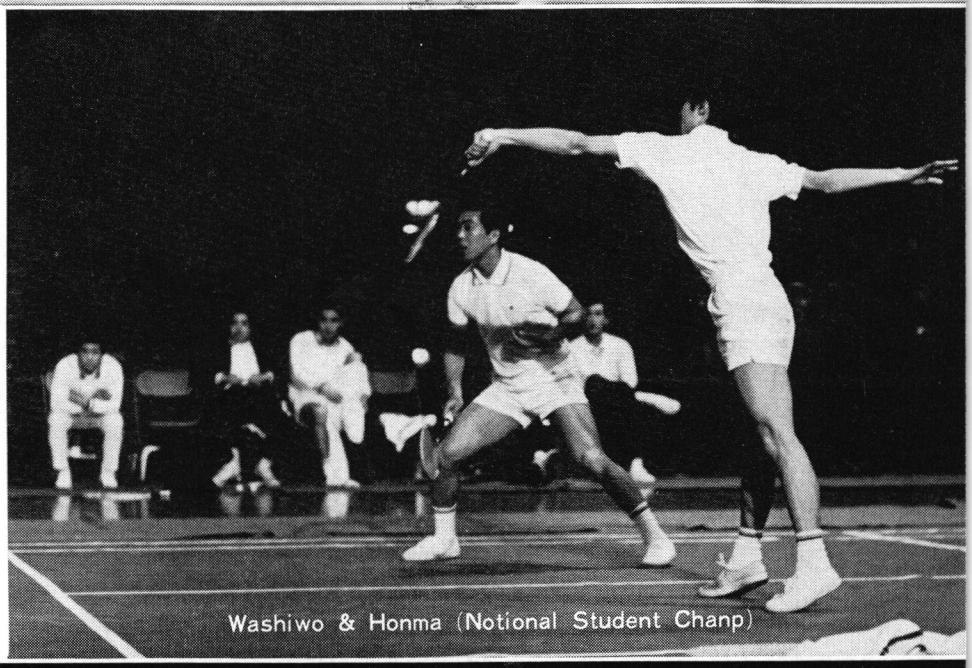
Taniguchi (Asian Games Roster)



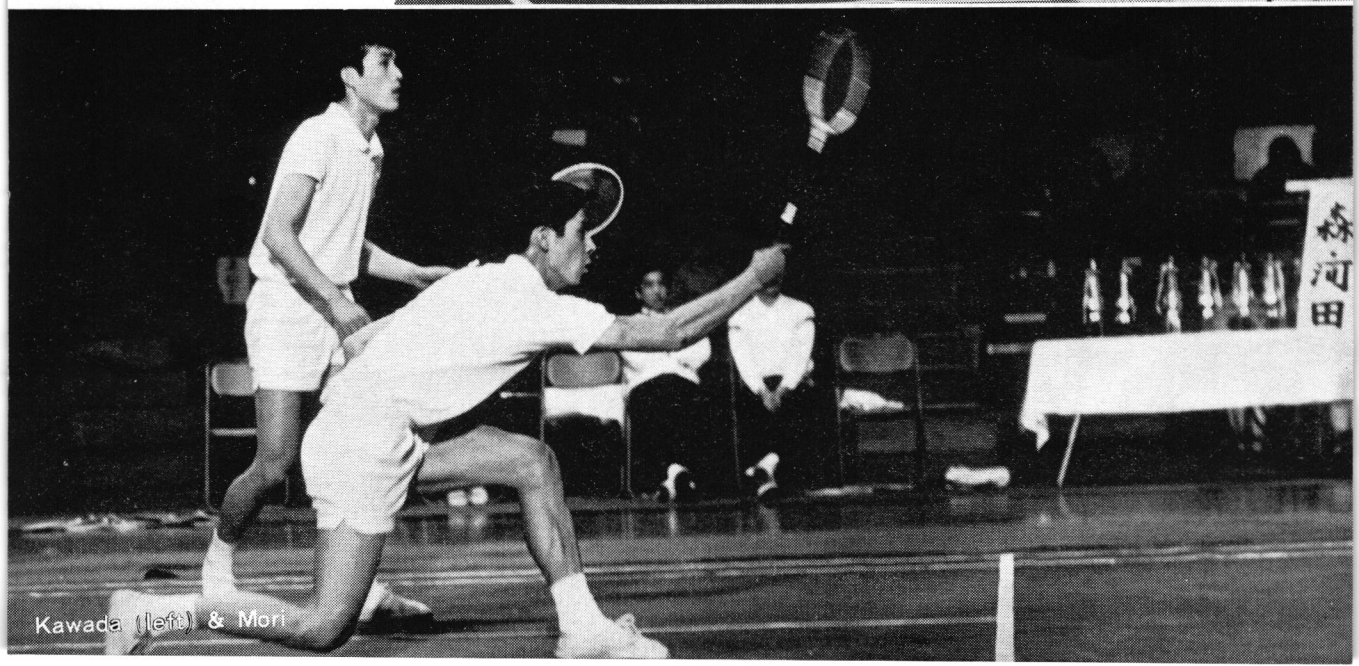
Sakai (ex-Thomas Cup captain) & Seki

コンビの妙

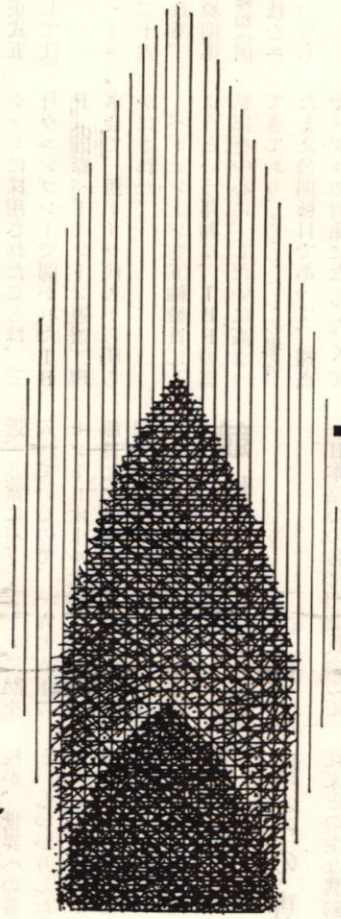
—ダブルスの熱戦から—



Washiwo & Honma (Notional Student Chanp)



Kawada (left) & Mori



TOKYO gas

東京瓦斯株式会社

東京都中央区八重洲1の3
電話(273)0111(大代表)

ミュンヘン五輪〝公開種目〟に

バドミントン　正式参加への展望開ける

ミュンヘン・オリンピックでバドミントン競技がデモンストレーション（公開演技）として登場することになった。正式五輪種目への〝第一歩〟として注目される――。

第二十オリンピアード・ミュンヘン大会は、来年八月二十六日から九月十日まで開かれる。オリンピックのさいは、規則第三十二条にもとずき、二種類（国技と外来スポーツ）の競技をエキシビションとして、やってもよいことになっている。

なにを実施するかは、開催国（今度の場合は西ドイツ）の大会組織委員会が、人気や普及度などを考えて決める建て前。

バドミントンがこのエキシビションに採用されたことは、三月ウエンブレーで開かれたIBF（国際バドミントン連盟）理事会で、西ドイツ代表から明らかにされた。

バドミントンを五輪種目にしようという運動は、IBFの首脳部を中心に、しだいに高まってきており、ミュンヘンの場合、たとえ公開種目であって、採点やメダルの対象にならなくても、とにかく、オリンピックの一部になったことは、近い将来がきわめて有望になった、とも考えられる。

また、一部には「カナダが最近、非常にバドミントンに熱を入れているので、一九七六年のモントリオール大会には、正式種目になるかもしれない」と観測するむきもある。

オリンピック種目になるためにはIBFとIOC（国際オリンピック委員会）の話し合いが必要。その前提として、その競技が、世界への普及度が高いこと、しっかりしたアマ規定を持っていて、オリンピック運動の理想と合致すること、などの条件が必要だ。

この点、バドミントンは、共産圏各地での普及度が低い（実際については知る手段がないため不明だが、現在のIBF正式加盟国はチェコ、東ドイツ、ハンガリーだけ）こと、アマ規定は抽象的で、外国選手の中にはプロ的なアマも多いと伝えられている等、まだ問題がある。

ミュンヘンでの実施の細目はまだ明らかでないが、IBF理事会に出席した高倉理事によれば、一日で二面のコートを使って行う予定とのこと。どのような方式にしても、日本は積極的参加のかまえである。

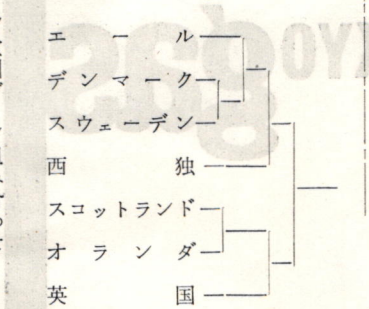
ユ杯の日本開催本決り

第6回　来年六月に

第六回（71～72年）ユーバー杯世界女子選手権大会の日本開催が本決まりとなった。

三月二十六日、全英選手権大会のさい、ウエンブレーで開かれたIBF（国際バドミントン連盟）理事会で要請があり、日本が引き受けることを表明したもの。詳細な日程は未定だが、インターゾーンは七二年六月三日を最終日とする約一週間と見られている。

また、このほどIBFから届いた連絡によると、第六回ユ杯の欧州ゾーンの組み合わせが、別記のとおり決まった。一回戦は本年十一月末、決勝は来年三月末までに終了する予定。



▼欧州ゾーン組み合わせ

競技力に伊藤基、指導は毛利氏

日本協会の専門委員長ら出揃う

日本協会の各専門委員会の正副委員長が次のように決った。今後二年間、職務を担当するが、従来との主な異動は、新設のアマ委員会委員長に森友副会長が、競技力には伊藤基（前指導委員長）指導委員長には毛利常務理事が就任。用具委員長には市嶋常務理事が新任された。

（氏名は最初にあるのが正、つぎが副委員長、氏名の下のカッコ内、常は常務理事、理は理事）

▼総務＝菊地利明（常）伊藤鉱一（理）**▼競技**＝相場清一（常）岡村英男（常）**▼指導**＝毛利清志（常）遠井稔男（常）**▼用具**＝市嶋智三郎（常）吹田修一（理）**▼審判**＝内藤安雄（常）金子幸男（理）**▼広報・出版局**＝牧野武（常）後藤忠弘（理）**▼財務**＝未定**▼表彰**＝五十嵐正信（常）松本弘充（理）**▼競技力**＝伊藤基記（常）佐藤芳朗（常）**▼アマチュア**＝森友徳兵衛（副会長）

【担当常務理事】▼学連＝菊地**▼実連**＝並木万次郎**▼教連**＝岡村**▼中高体連**＝遠井**▼IBF**＝高倉正治（副理事長）**▼経理**＝佐藤、並木

【日本体協派遣】▼評議員＝本田弘敏（会長）**▼その他の委員**＝川端昇市（理事長）

日本体協も機構を改正

社会体育の普及開発に力こぶ

人事面でも若返りはかる

日本体育協会（日本バドミントン協会が加盟している上部団体）が機構を改革した。

いわゆる社会体育の推進と選手強化の二つを受け持つ〝アマ・スポーツの総本山〟日本体育協会は、時代の変化に応じたスポーツ行政策を行なうため、一年がかりで、委員会機構の改革を研究していたが、ようやくまとまり、四月の役員改選と合わせ、新体制のスタートを切った。

これによると、日体協はもっぱら社会体育の推進に力を入れるため、委員会を整備、理事会の下に普及、施設、国体、日本スポーツ少年団本部の四委員会が置かれ、これまで選手強化を受け持っていた競技力向上委員会は廃止された。

また、これらの事業を〝一億総スポーツ化〟に結びつけていくため、「国民体育振興全国会議」が設けられた。この会議には加盟団体の理事長クラスの人が参加する。

このほか、各施策を推進する資金確保のため「財務委員会」が発足、政財界人をもまじえたスタッフをつくる。

廃止された競技力向上委員会の仕事は、JOC（日本オリンピック委員会）が扱うことになった。

JOCはこれまでオリンピック種目の競技団体をメンバーとし、関連ある仕事を処理していたが、今回の改正で、全競技の選手強化についての事項、とくに強化資金の配分（バドミントンが全英選手権に遠征したりする場合）などは一手に扱うことが決まった。ただし、バドミントンをはじめ、オリンピック種目でない団体が、どういう形でJOCの中に加わるかは未定。

一方、各委員会を能率的に運営するため、メンバーは従来よりしぼることになり、加盟競技団体の代表を四つの委員会に配分した。バドミントンからは、〝小さなボールゲーム〟を代表して川端理事長が国体委員会にはいった。川端氏はさらに国体委からの代表として日体協の広報委も手伝う。

各委員長は〝七十歳定年制〟の実施で若返えり、栗本義彦・国体委員長、野津謙・スポーツ少年団本部長、東俊郎・スポーツ科学委員長、両角政人・広報委員長が、自動的に退陣した。

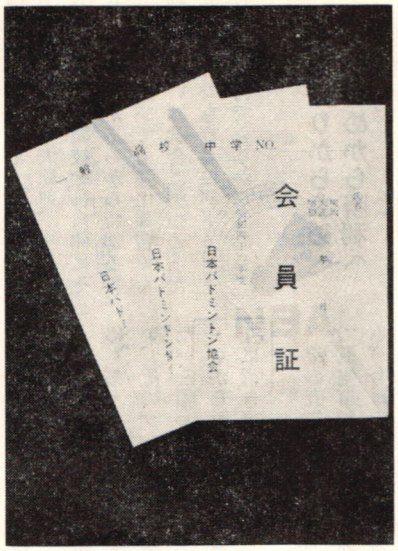
新しい主要役員つぎの通り

▼会長＝石井光次郎（自民党、ゴルフ会長）**▼副会長**＝河野謙三（自民党、陸連会長）田畑政治（水連名誉会長）**▼専務理事**＝青木半治（陸連理事長）

【委員長】▼財務＝未定**▼スポ少**＝石井光次郎**▼普及**＝山口久太**▼スポーツ施設**＝竹腰重丸**▼国体**＝保坂周助**▼アマ**＝鈴木良徳**▼広報**＝広堅太郎**▼スポーツ科学**＝前田豊

中学生も登録をどうぞ

無料で会員証もらえます



▲新年度登録会員証

日本協会は、今年から中学生会員にカードを配布した。特例として登録料はタダ。どしどし登録して下さい。

〉地方協会新役員へ

【愛知県協会】

▼会長　後藤鉀二（愛知工大学長）**▼副会長**　長谷川参三（自営）**▼理事長**　渡辺成雄（名古屋国税局）

▼総務委員長　伊藤鉱一**▼競技**　野口勇**▼指導**　青山敏郎**▼普及**　後藤守**▼審判**　田中章喜

▼常務理事　伊藤鉱一、野口勇、後藤守、青山敏郎、加藤三郎、田中章喜、上原信彦、尾関敏教、中野正紀、小林洋栄、野口譲

▼常務理事担当　財務＝尾関実連＝上原、高体連＝田中、学連＝野口

【愛媛県協会】

▼会長　俊成薫（県会議員）

▼副会長　波多野精美（耳鼻科院長）村岡則章（愛媛大職員）

▼理事長　浜中誠（丸善石油）

▼副理事長　石丸良男、佐伯光一**▼常務理事**　越智勤也（審判長）池内長良（競技委員長）三好勝利（指導委員長）白石卓夫（財務委員長）新名静夫（総務委員長）野村一弘（下部団体組織委員長）

（注）この論文は今井先生が「新体育」四月号に書かれたものを、転載させて頂いたものです。

〝この一球〟を決める四つの要素

バドミントンにおける守と攻め

日本女子体育大学講師　今井　先

1・試合に勝つこと

わが国へバドミントンが渡来したのは昭和の初期といわれ、あるいは大正の初めとの説もある。また明治44年、女子学習院の校庭で羽根つきのように遊ばれているのを見たという人も現存している。

いずれにしても、それは軽いレクリエーショナルなスポーツとしてであった。第2次大戦後、種々の要因が重なって、この競技は急激に全国に広まった。

各都道府県の大会はもとより全国覇権をかけての数々の大会が開催される一方、国際的にも躍進また躍進の一途を辿り、現在では女子は世界第1位、男子も3位とは下らない実力の保持者となっている。

しかし、軽スポーツとしてのバドミントンも、これに並行して、さらに全国的な普及を見、職場や家庭において、白いシャトルをラケットで打ち合う風景は、四季を通じて人々の目をひき、いわゆる社会体育の面においても最も可能性をはらむ種目の一つであることは衆目の認めるところといっても過言ではなかろう。

このバドミントンの二つの様相は学校体育の中にもそのまま現われている。同じ学校のバドミントンクラブの中にあって、ある生徒は県大会での優勝を狙って必死の練習を続け、他のある生徒は時間のあるだけ楽くお遊びをしたいと言う。

それがクラブ本来の姿だとさえ主張する。他のクラブの練習にはついてゆけぬ敗残者、いわゆる運動神経のない生徒、非力な生徒が安易な気持で入って来るケースがバドミントンクラブには少なくないようである。

陸上競技やバスケットボールのクラブが、特に高校の場合選手制に割り切って考えやすい度合いとバドミントンの場合のそれと、何か少しく違うようである。

しかしながら、たとえお遊びであろうと、県大会を翌日に控えての選手の練習であろうと、ゲームをする以上は勝つことが目標である。

苦しいことはいや、強制されることはいや、ただ面白く遊びたいという生徒でも、試合中わざわざ負けたいと願うはずはない。

二人でクリヤー（ロビング）の打ち合いを練習するにしても、少しでも長くラリーを続けたいと、むしろ真剣な目つきで、額に汗をにじませて、エラーをしないよう必死にラケットをふりまわす。

バドミントンでは運動神経のない生徒歓迎、ほかの部から追い出された生徒も、足がおそく力のない生徒も大歓迎、それはバドミントン競技それ自体にそれだけの幅があるからである。

そして遊びでも強化練習でも最後の狙いは試合に勝つことだと、だれでも容易にバドミントンでは体得できるからである。

2・守りから攻めへ　攻めから勝利へ

バドミントンの試合における勝利の要訣は、攻撃であることを、文書の上で最初に説いたのはケネス・R・デービットソンである。

彼の名著Winning Badminton（一九五三年初版。訳書としては慶大の兵藤昌彦氏「ウイニング・バドミントン」不味堂刊あり）は今日に至るも世界のバドミントン人のより所となっている。

デービッドソンは「ケン」または「デーブ」の愛称で英米のバドミントンプレーヤーに親しまれた。輝やかしい戦績を残してプロに転向。転向後も当時のアメリカ・バドミントン協会会長T・N・ロイス氏の愛顧をうけた。

その華麗なフォームとショウマンシップは特に少年少女のファンを魅了し、バドミントンの普及と発展に大きな貢献をしたのである。

一九五四年、ロイス会長の勧めもあって、筆者は是非彼に会い、そのプレーを見、語り合いたいと願ったが、ワシントンD・Cからヒューストンまでの間互に行き違って約を果し得なかった。

その直後、デーブは加州上空で航空事故に遇い、急逝している。今はその遺著によるほか彼をしのぶすべはない。「ウイニング・バドミントン」は入門書であり上級者に対する活きたコーチでもある。

原文はわれわれには難解な個所が散在するかも知れぬが、誠に名文であり達文である。繰りかえし読むならば、この大判一五〇頁にわたる書物がバドミントンの宝庫であることが分るであろう。

また、その各行間に彼の「バドミントン哲学」が浮き彫りにされているのをさとるに違いない。彼の根本思想を筆者なりに要約すると、「バドミントンに

おける勝利は攻撃から引き出される」となろうか。

3・攻めとは？守りとは？

バドミントン競技では、その攻守について一般的には次のようにいわれている。

「試合中、上からシャトルを打ちおろしている側、また、よりネット近くで打っている側は攻撃しているのであり、下から打ち上げている側、また、よりネットから遠いところで打っている側は防禦体勢である。」

また、野球やソフトボールが各イニングの表と裏で攻守を交代するという考えに従うならばバドミントンでは「イン」サイドが攻めで、「アウト」サイドが守りであるといえよう。「イン」サイドとはサービスをした側であり、「アウト」サイドはその反対側である。

バドミントンのスコアリングでは、「イン」サイドが勝ったときのみ得点し、「アウト」サイドが勝った際にはサービス権が移動するだけで得点は進まないからである。

しかし、例えば野球において、守備側にある投手は果して防禦体勢と考えながら一球一球を投げているであろうか。むしろ投手は打者を攻め抜いて3ストライクを取り、そして早く3人を攻め落して自軍に打撃の機会を興えたいと願っているに違いない。少なくとも投手は打者と秘術をつくして攻め合っていると意識しているのではなかろうか。

バドミントンにおいても「アウト」サイドは、少しでも早く「イン」サイドに勝ってサービス権を自分の側へもって来たいと願っているはずである。

反対に「イン」サイドは一度取得したサービス権を相手側に譲り渡さぬため、各ラリーを勝ち続けたいと願うはずである。

そこで「イン」サイドも「アウト」サイドも等しく狙うことは、何とかして相手を攻略し、それを最後の勝利に結びつけたいということとなる。さて、いま一度、冒頭に掲げた命題をふりかえってみたい。

「より高く、より前での打球が攻撃で、よく低く、より後ろでの打球が防禦である。」

これは一般的な概念としては確かに正しい。しかし上から打ちおろすことが場合によっては敵の思うツボかも知れない。また下から打ち上げることが実は攻めの打球であるかも知れないのである。

ここで、日本バドミントン協会機関誌「バドミントン界」一九七〇年17号所掲の国体戦評の一部を引用する。

『一般男子決勝
山　梨　2（複1―0）（単1―1）1　東　京
①ゲーム展開については、東京のパワーとスピードに対し、山梨のコントロール・ショットの予見力。
②ゲーム内容については、東京の水際作戦（ネットのより近くでシャトルを処理）、山梨は引きずり込んで叩く作戦。
③ベンチは山梨の監督が泰然自若としており、東京は堺督監が細心の注意を興え、ゲームの主導権の裏方は監督に？明暗を分けたダブルスを分析すると、三点の基本的相違があった。
そのどれが勝敗につながったか性急な判断は避けるが、少なくとも②についていえば、東京の意図したところはダブルスの定石だが、山梨の戦法はその上に卓越したレシーブ力と勝利への転換が可能な（つまり、高さとコースが最適な）返球をマスターしたチームのみ実践できるものである。
総合戦力が互角な両チームが勝敗を分けねばならなかったのは、定石の上に、さらに積み重ねられねばならない、いくつかの高次元の要件が、あったか、なかったかにかかっていたのである。（大会審判長内藤安雄）』
示唆に富んだ、味わい深い戦評である。



絵・芦間登美子

4・守りから攻めへの転換へ

バドミントンではシャトルを飛ばすためにはラケットを振る「ストローク」とそのストロークによって打たれたシャトルの飛び「フライト」とをはっきり区別して考える。

そしてフライトをクリヤー、ドロップ・ショット、スマッシュ、ドライブ、ヘヤピン・ショットの5種に大別して考える。

この5種を通じて3つの要素がある。

①プレースメント　②スピード　③テンポ

①は主として方向、高低である。また送球点とも考えられる。②は速さ③は早さ、直前の打球後どれ位の時間を置いて次の打球がなされるかということ。

今、白紙の状態で考えると、全てのプレヤーは、サービスに当っては、一応この三要素について、それぞれ自由な選択権をもっている。つまり主導権を握っている。

（実はサーバーが余りにも有利にならぬよう、競技規則はオーバー・ハンド、オーバー・ウエスト、フット・フォルト、ボークの4フォルトで制限を加えているのであるが。）

ところが、ラリー中では、予見を誤ったり、足が遅かったり

して（逆にいうと、相手に意表を衝かれたり、コートの反対側へスピードのある送球をされたりして）打球への体勢が崩れると、右の要素のうち、一つ、二つ、あるいは全部について自由選択権を失ってしまう。

つまり、守勢となるのである。しかし、三要素のうち一つだけしか残されなかったとしても、その一要素を生かして主導権を握ることはできるかも知れない。または、せめて相手に主導権を完全には譲らないで済ませるかも知れない。

テニスや卓球と同じく、彼我一打ずつを交互に行なうバドミントンにあっては、一打毎に攻守がその所をかえたり、続けて一方が攻め抜いてラリーの終りを勝利に結びつけたりする。

バドミントンにおける攻守の争いは、プレースメントとスピードとテンポに対する予見とフットワークのたたかいであるといえよう。

5・ダブルスのフォーメーション

以上は、単複の試合を通じていえることであるが、ダブルスでは、このほかに、パートナー同士の関係位置ということが加わってくる。

これについても一般的な概念（通説といおうか定石といおうか）がある。

「トップ・アンド・バック」は攻撃体勢、サイド・バイ・サイドは防禦体勢」（A図参照）がそれである。

しかし、図Aはシャトルがセンターライン上にある特異な場面を想定した観念的な図型にしか過ぎぬことを忘れてはならない。実際には、シャトルは右から、あるいは左から飛来する場面がはるかに多いのである。

図Bはシャトルが向って右にある場合（◎）と左にある場合（●）を示す。

多くのプレーヤーは、サイド・バイ・サイドの場合は、なるべく早くトップ・アンド・バックになろうとし、トップ・アンド・バックの場合はこれを続けて、そのラリーを勝ちとりたいと願う。

換言すれば、「どちらが早くネット際に出るか」の争いである。阿部一佳氏は、新潟の名門青陵高校および短大に在職中、幾多の優れたプレヤーを輩出した。彼が育てあげた相沢マチ子、竹中悦子の両選手は今や世界女子のトップレベルにある名選手達である。

図Cはこの両選手の基本的なフォーメーションである。トップ・アンド・バックの変型ともいえるし、サイド・バイ・サイドの変型とも考えられる。阿部氏はこれをウェッジ（くさび）型と呼んでおられるそうである。

両選手はこの形で防禦し、この形のままで攻撃をする。このフォーメーションは国内の大会ではほとんど敗れていない。恵まれた素質、殊に長身を利してのスマッシュの威力がこの体型をささえている。

阿部氏はこのコンビネーションによって、バドミントン界に一つの大きな問題を提起しているのだと筆者は考える。

阿部氏がこれをもってベストと考えているのか、あるいは発展過程の一齣としているのか、またはこれの可能性を相沢・竹中組の天恵の資質に結びつけているのか、筆者には分らない。

いずれにせよ、このウェッジ・フォーメーションを如何にして破るかが、全国のバドミントン指導者に、いま興えられている課題である。

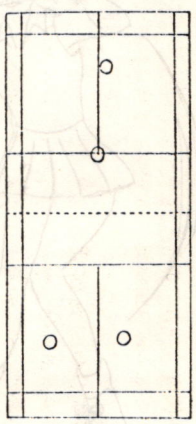
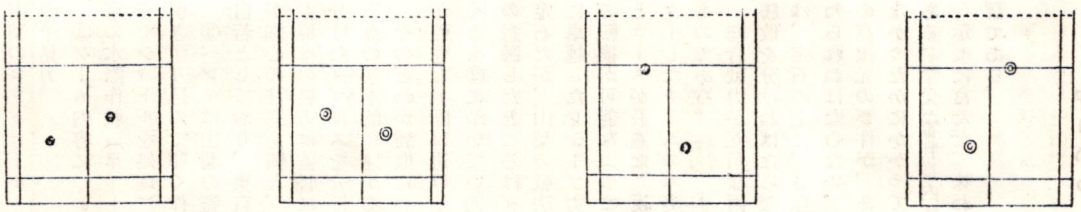
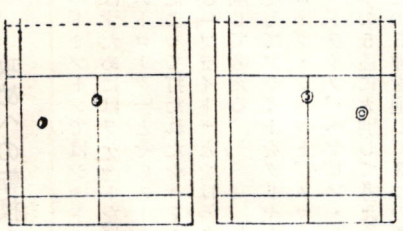


図 A



◎シャトルが右から飛来するとき ●シャトルが左から飛来するとき
図 B


図C ウェッジ・フォーメーション
◎シャトルが右から飛来するとき
●シャトルが左から飛来するとき

寺崎、男子単に5連勝

◆45年度福井県総合選手権大会（46年3月20・21日、武生市営体育館）

男子シングルスは寺崎由雄（敦賀市役所）が府岡（福井銀行を押え、四連勝を飾った。府岡は笠川と組んだダブルスで、逆に過去5連勝の寺崎・原組を破って初優勝した。

女子のシングルスは福井銀行勢の決勝となり、稲木秀子が島田をストレートでくだし、初の栄冠を得た。同ダブルスは多田慧子・佐藤信恵組（福井市役所）が初の王座を獲得した。混合ダブルスは男子単の優勝者・寺崎と女子ダブルス優勝の多田のコンビが断然強味を発揮、タイトリストとなった。

福井銀行、男女ともに強し

◆知事杯争奪第六回福井県実業団選手権大会（46年4月4日・北陸電力体育館）

男子は三部14チーム、女子5チームが参加、グループ別の団体リーグ戦で行なわれた。

男子一部は、ライバル敦賀市役所を3－2で破った福井銀行Aが、3戦全勝で優勝。同二部は松文産業が全カードにストレート勝ちの4戦全勝で、また三部は日産サニーが、それぞれ首位となった。

女子リーグは福井銀行が断然強く、無失点の4勝0敗で栄冠に輝いた。福井銀行が男女ともに勝ったのは第二回大会以来で二度目。また男子の福井銀行の優勝は三連勝で五度目、女子は二度目、松文産業、日産サニーは、ともに初優勝である。

× × ×

× × ×

杉田夫妻、またも混合制す

◆45年度神奈川県総合選手権大会（46年3月28日、神奈川立体育センター）

男子シングルスは坂本（カローラ神奈川）が準々決勝、宮川（河崎ラケット）が準決勝で敗れ、鈴木勝之（三菱横浜）と渡辺直人（横浜市庁）が王座を争った結果、第二シードの鈴木が第一シード渡辺をフルゲームのすえくだし、優勝した。

女子シングルスは第三シードの横尾節子（平塚商OG）が、やはりフル・ゲームでベテランの第一シード杉田夫人（コロムビア）を破り、王座についた。

男子ダブルスは瀬戸・武岡組（IBAM、早大組）女子ダブルスは杉田・味藤組（コロムビア、日女体大OG）が、いずれも初優勝した。混合ダブルスは杉田夫妻のがペア断然強く、四連勝を飾った。

日体大勢、男子で単複とも優勝

女子シングルスは本間（日女体）に

◆第六回全関東教育系選手権大会（2月20・21日、平塚市見付台体育館ほか）

将来、学校教育にたずさわる予定の学生を対象としたもの。競技者自身の技術の向上を通じ、バドミントン競技が広く体育教育のカリキュラムにとり入れられるべく、理想的な指導者を養成する一環として、意義が深い。

日程二日間のため、ハードスケジュールで、第一日などは優勝まで五試合を戦うありさま。将来の教師のタマゴといっても全日本級の学生の大半が参加者なのでレベルは高い。

男子は予想どおり選手層の厚い日体大が圧倒的に強かった。シングルスは門間（二度目）ダブルスは今井・桐生組が門間・木戸組の三連覇を阻んで初優勝した。女子シングルスは日女体大同士が対戦、本間が第四回についで二度目の優勝を決めた。

（この項は全日本学連副委員長、保坂佳人君の提供）

× × ×

おことわり この欄の記録は巻末にあります。

女子は東大阪勢が大活躍

◆45年度大阪総合選手権大会（3月6、14日、大阪市立東淀川体育館ほか）

旧年度のしめくくりらしく盛大に開催することができた。一般男子シングルスは和田（FKC）が遠藤（スワロー化研）をストレートでくだし優勝した。一般女子は単複決勝ともに東大阪短大勢同士の争いとなり、シングルスは高崎、ダブルスは大場・石崎組が、それぞれ栄冠を得た。

ただ、残念なことに一般男子で西日本学生NOIの山口（近大）一般女子に東大阪のエース柴山、高校生として初めて海外遠征した西尾・秋本（四条畷学園高）が参加できず、少しさびしかった。（この項、青木昭二氏提供）

永井が単にがい歌

◆京都社会人総合体育大会バドミントン選手権（4月18日、京都市体育館）

青年男子のシングルスは永井（堀場製作）同ダブルスは脇坂・荒木（北山ク）が優勝。青年女子シングルスは松本（川島織物）が王座を占めた。

続・上級編〈プレーヤーへの手紙〉

離距 ⑤ どこからラケットが出るかわからぬ変化

バドミントン忍者・小千片恵子選手

日本教職員連盟常任理事　三須徳次

このシリーズは、現在、第一線で活躍している選手たちの長所、問題点などについて三須先生が分析、あわせて、読者のみなさんが、それを自分のプレーと比較しながら、参考にできるようにという観点で、掲載されているものです。

今回のモデルは小片千恵子選手（日体大四年、主将）です。

小片さんは、いわゆる〝変則的〟プレーヤーです。こういってしまっては、失礼になるかもしれませんが、オーソドックスなプレーヤーから見ると、たしかに変わったフォームですし、私ばかりでなく、小片選手を知る人たちも、やはり同じようにいっています。

それは、グリップがウェスタンであること、逆足が主体であること、などに現われています。ほかにも変わった点がありますが、それは順を追って説明しましょう。

もっとも、私が実際に、ごくわずかな時間ですが、小片選手と手合わせをした結果では「思っていたほど、変則ではなかった」というのが実感です。

小片選手のプレーには、〝我流〟的な面が多くあります。それは、多分、プレーヤーとして育った過程から来るものでしょうが、これについても、あとで触れましょう。

そのほか、特色としてあげられるのは、動作に変化があるという点です。シャトルを追いかける姿は、まことにダイナミックであり、打つときは、予想もしないところからラケットが出て来て、いとも簡単に返球するので、相手は、とまどってしまいます。

ふつうの選手なら、まず上手にコースをつき、相手の体勢を崩しておいて攻撃を仕掛けるわけです。ところが、小片さんの場合は、自分が体勢を崩していても、あらゆるところから、ラケットを出して返球してくるので、相手としては、とても攻撃しにくい。

動きにスキをつくらず、相手が眩惑（げんわく）されるので〝忍者〟的なプレーヤーと申せます。ものの順序として、昭和の忍者ともいえる同選手の過去を、のぞいてみたいと思います。



▲スキーの回転競抜を思わせるダイナミックな小片選手の突進フォーム

四国は名門・善通寺の出身でバドミントンには中学時代から親しんでいました。

高校三年のときに、国体で二位になりましたが、ふしぎに、その他の大会では、目立つ活躍をしておりません。

ただ、その前年、高校総体に出場したとき、優勝したダブルスに対し、一番、善戦したといわれ、あっぱれな〝忍者〟の片リンは見せてくれたわけですが、いずれにしても、それほど目立たないまま、日体大に進学しました。

ラケットを手にした動機は、中学一年の夏すぎ、友人に誘われて、とのこと。入学と同時に入部した選手たちは、すでに素振りを身につけていましたが、小片選手はなんにもやれず、同級生の素振りを横目で見ている辛い毎日でした。

そんなある日、一人で小石をラケットに当て、ラケットの振り方や、石の当たるタイミングを考えていると、石が教室の窓のガラスに当たってしまいました。顧問の先生に呼ばれ、入部したばかりの身分では「おそるおそる」参上したところ、怒られるどころか、素振りを教えてもらうことができました。

そこでやっと、ラケットの振り方がわかり、いまなお、その時の嬉しさは忘れられないそうです。

大学進学後は、めきめきと腕を上げ、マニラで開催された第五回国際学生選手権大会にも、日本代表として参加し、外国遠征の経験をつんでおりますし、第二十回の全日本学生選手権大会で、シングルス・ダブルスと

もに四位になっております。

バドミントンのほかに、テニスをやっていたためだと思いますが、ラケットの持ち方はウェスタン・グリップです。ウェスタン・グリップがよいか、イースタン・グリップがよいかの問題は、一長一短がありますので、今回は結論は出せませんが、小片選手の場合はウエスタン・グリップで成功したと考えられます。

ほしいダブルスでの試合展開の研究

一番の特徴はよく動くことですが、気分的に少し余裕を持って、試合を進めると、更に忍者としての実力が発揮できる素質があります。自分でも認めておりますが、シングルスの方が得意です。一般にシングレスが得意な選手は、ダブルスでの試合展開の方法を研究すべきです。例えば、小片さんの場合は接戦になった時のつなぎ方とか、スマッシュ攻撃をされたときに、相手側が追いつきにくいコースへ、ドリブン・クリーヤーで返球してみることも必要です。

シングルスで一段上の選手と対戦したときは、ネットに返球するなら、もう少し丁寧にヘアピンで確実に入れる慎重さと、相手が後方バック・ライン一杯に返球してきた場合を想定してシングルスではもう少し退がった位置からのヘアピンを練習しておけば、後退するのにも都合よく、その上で後退するフット・ワークの工夫をすれば、ゲームで後手にまわることがなくなります。

小片選手の最大の難関は、一度対戦した選手に、二度目でほとんど苦戦することです。これからは相手が自分のプレーを研究している以上に、相手選手の特徴などを徹底して研究し、その上で自己の特製プレーを披露してもらいたいと願っております。

体格上のハンデをどうおぎなう

課題としては体格から来る問題があります。つまり、身長154センチ、体重52キロ、決して大型とはいえないので、疲労してきたときに、いかなる位置でシャトルをとらえるか、ということです。あまり、からだの大きくない読者のみなさんも考えてみて下さい。

ドロップ・ショットを打つときはネット上を越えてすぐ、シャトルを沈み込ませるタイミング、および大切な場面でドロップをネットに当てる失敗が多いので、打点に注意することが必要です。

またスマッシュを打ち込む角度、威力あるスマッシュを早くマスターし、忍者が身上とする身軽さを、桧舞台のユーバー杯戦で見せてほしいと思います。

胸つき八丁の山にかかっている小片選手ですから、苦しくても、辛くても山頂めざして太陽（無数の相手）が昇る前に、登りきらないとご来光は拝めないことになります。今迄に歩ゆんできたトレーニングのナワ飛び、ランニング、高校時代にやっていた手首強化の壜振りを持続しませんと、山頂を目前にして、今迄に登ってきた歩巾（経験、技術、作戦、精神面、特徴）が狂い、山頂に辿りつくのが遅れてしまいます。

次回は鷲尾正一選手（中大）の場合を取り上げる予定です。



機先を制し，相手のペース崩す

ゲームにおける「心理作戦」の必要性

実力的に下でも，勝つチャンスは充分

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

ゲームを行う時、単に正攻法で攻めたり、何の配慮もなく返球するのでは、試合の主導権を握ることは困難である。

ましてや実力上位の選手とやる時には、勝つことなど到底おぼつかないものである。

そこで〈かけ引き〉が必要となる。

試合巧者といわれる選手は、実力もさることながら、がいしてこの〈かけ引き〉においても優れているものである。

実力がありながら、あっけなく敗れる選手も時にはいるが、これは裏を返せば、それだけ〈かけ引き〉がまずいということになる。

実力が互角か、あるいは、それ以上の選手と対戦する時には、この〈かけ引き〉の上手下手がゲーム展開に大きく影響するものである。

――強打すると見せかけて実は弱く、弱く打つと見せかけて実は強く、フォアへ打つと見せかけて実はバックへ、あるいは逆に。

前に持って行くと見せかけて後へ、あるいは逆に。

小さなストロークから大きく早い球を、あるいは逆に……というぐあいに、この〈かけ引き〉も多種多様である。

このような〈かけ引き〉をフェイント・モーションまたは、ダブル・モーションと呼んでいる。

☆　☆　☆

これをうまくこなすには、球を引きつけて、ワン・ステップ・ストロークを行う練習が肝要である。もちろん、基礎練習がみっちり行われた段階で練習を行わなければ、非力なプレイヤーになってしまうので、注意しなければならない。

高度な技術を要するだけに、未熟な状態での練習は避けなければならない。

☆　☆　☆

〈かけ引き〉とは、ゲームにおいて相手を欺瞞（ぎまん）することであり、相手の力や技を攪乱することであり「いつ、どこへ、どんなタマが来るかわからない」ように戦々怖々（せんせんきょうきょう）の心理状態に陥らせ、消極的な受身一方にさせることである。

選手にとって受身一方にまわらされることほど嫌なものはない。

走らされて、スタミナを消耗して、自分の力量や実力を、なんら発揮せずして終わってしまう。

これほど選手にとって、つまらなくみじめなことはない。なんのために苦労して、練習を積んで来たのかわからなくなる。

☆　☆　☆

ワン・ポイント・アタック

心理作戦が、相手の心をゆさぶり、ゲーム展開をマイ・ペースで運ぶことであるならば、フェイント・モーションと違ったものであるが、効果的なものの一つにワン・ポイント・アタックがある。

これは相手コートの一カ所ばかりを徹底して攻めつけるものである。三本も四本も立て続けに一カ所ばかりを攻撃されるとつぎもまた同じ所を狙われるのではないかとの不安と懸念（けねん）が先きに立ち、足も気も心も、その方角にくぎづけされ、逆方向はより遠くになってしまう。

その結果、少々まずいカットやドロップあるいは、切れの悪いスマッシュでも強烈な有効打となるものである。

人間の心理というものは一カ所ばかりを攻められると、ホーム・ポジションへのリターンという基本を忘れ勝ちである。よしんば冷静なる判断をくだしたとしても、実際には足が膠着してしまって、フット・ワークがにぶるものである。

このように一カ所だけを集中的に攻め、相手の心理状態を攪乱するのも、試合の主導権を握って行く上において、非常に大切な作戦の一つである。

☆　☆　☆

ワン・ポイント・アタックについで、ツー・ポイント・アタックも結構。とにかく相手のペースを崩し、その間隙と心の空間に乗じて行く戦法ととしては有効である。

実力が自分より上の選手と試合をしたり、或るいは自分がスランプに陥り、相手の調子がよい場合などは、特にこの戦法はきく。わざわざ相手の強いポイントばかりを狙い、タカをくくらせ、油断を誘い、実はその裏をかくのも、高度な作戦といえる。

☆　☆　☆

団体戦、特にインターハイ、国体などで、私のよく使った手の一つとしては、相手チームやベンチに対し、心理的動揺を与えるものがある。

わずか数分の練習時間に、他校はハイクリアー、ドロップ、カットとセオリー通りの練習をやり、時間切れになりがちなのに対し、私は、セオリーを破り、いきなり私自身がスマッシュを選手のバックばかりに打ち、次はスマッシュを選手に打たせ、激しいフット・ワークを行わせて数分を終る。

もちろん、相手校や他校の選手には「東大阪強し!!」のイメージをさらに強く植えつけて、相手をちぢみあがらせてしまうのである。

こうしたことも、相手の機先を制するのでなければダメである。

二―八、三―七で実力が劣っていても、相手にゆさぶりをかけて、何回となく勝利に導いたものである。

最近は、このような私が行ってきたデモストレーションそのままを真似る学校が増えて来たが、よいものであれば大いに取り入れればよい。

いずれにしろゆさぶりをかけるには、他校や全国に先がけることが、より効果的である。近畿十年連続王座を守ったり、全国制覇をするために自然と身についてきたチエかも知れない。

（筆者は東大阪短大監督）

復帰間近い沖縄の仲間に善意を

愛読者の皆さんにお願い

先月号のこの欄でもお願いしましたが、本誌ではただいま、本土復帰間近い沖縄のプレーヤーに、用器具等の援助のキャンペーンを行っています。

本誌を創刊以来、ご愛読の皆様には、充分、おわかりのことと思いますが、沖縄では、いまだにバドミントン用具が入手難の上、非常に値段も高く、愛好者の方々が日常の練習もなかなかむずかしい状態にあります。

七三年春には沖縄で復帰記念の総合スポーツ祭が開かれる予定ですが、このままでは、地元の沖縄のレベル向上も、心もとない限りなわけです。

こうしたことから本誌は沖縄の仲間に、本土の仲間からの善意を贈り、少しでも発展の役に立てばと願い、愛読者の皆さんのご協力をお願いするわけです。学連、日本協会有志からも、協力していただくお約束になっていますが、今後さらに、一般の愛好者の方々からも善意の寄贈をお待ちしています。

用具類なら、なんでもけっこうですし、また、現金、手紙などの寄託も受けますので、よろしく。ご厚志を寄せられた方々の氏名は本誌上に発表します。

（編集部）

★読者の皆さんの投稿、寄稿をお待ちしています。内容や長さには制限がありませんが、連絡の都合上、住所・氏名は必ず明記して下さい。どんな小さなニュース、話題、新聞の切り抜き、写真等、歓迎します。

技術やルール等に関するご質問は時間がかかる場合もありますので、あらかじめ、おふくみおき下さい。



《表紙》
草島 正治、田所 光男
（法政大三年）

二月の社会人×学生対抗に初出場、森・河田組（川島紡、大洋紡）をストレートでくだして威勢のいい若手、としてファンの注目をあびた。

草島君は富山商高、田所君は日大山形高と、ともにバドミントンでは〝名門〟の出身。一年のときからコンビを組み、昨年は全日本学生二位、全日本総合ベスト8、関東選手権三位。

お互いの評によると「草島君はダブルスをよく知っており、一発の勝負強さを持つ。ほがらか」田所君は「相手の話を、一歩折れてきく耳を持っている」

足に自信があり、ランニングを競争すれば部でトップの自信あり、という田所、走ることの話はかんべんしてという草島。このへんは対照的だが、似ているのは「卒業してもサラリーマンにだけはなりたくない」という点。お互いに「根性がある」と認め合っている。

目下、目標は「全日本総合の優勝」だそうだ。「うまさではいい線をいってる。これにあとはパワフルなものが加われば」とは周囲の評。

編集室から

さきごろ日本協会の役員が改選され、新体制がスタートした。日本のスポーツ界は、目下、全国民にスポーツの機会を与えること、国際競技で勝つことという、二つの大きな命題の下で重大な体質改善を迫られている。この時機にバドミントンはいかにあるべきか。広報関係者に卒直な意見を求めた。協会役員の中には、耳の痛いこともあろうが、バドミントン発展のため充分、耳を傾けてほしい。

広辺の一環として、ママさんの活動をとりあげた。次号ではスポーツ少年団の状況をとりあげるつもりで、目下、資料を調査中です。特集として海外遠征総まくりも登場の予定。

本号の協力スタッフ　表紙写真・松井亮磨／同製作・小浜正道／写真撮影・山田真市、フォート・キンモト他／カット・おおば比呂司・秦浩・芦間登美子

早わかり競技規則

ルール100問？

連載⑰

日本教職員連盟
監修
審判部

レシーバーの構えが終わるまでサービスは始まらない

問89 前に、サービスの期間について説明していただいたとき、疑問点が一つ残っているんです。

それは、「サービスの始まりはサーバーが明らかにサービスのために構え、レシーバーがこれを受ける構えができたとき」というのでしたが、サーバーの方はわかりますが、なぜレシーバーの構えが終るまで、サービスが始まったことにならないんです。

答 サーバーは、対手がレシーブの用意をするまで、サーブすることができないという条項（第15条）があるからです。これは、いかにも英国式な規則ですね。

お互にベストを尽し、対手にもベストを尽させつつ試合するというやり方です。サーバーはいつでも対手の用意ができたかどうか確かめてから、サービスをはじめることが必要です。

レシーバーの側からいえば、まだレシーブの用意ができないうちは、仮りに対手のサーブしたシャトルが飛んで来ても、実はこれは本当のサービスではないわけですから、受けようとしなくてもよいのです。

ただし、用意ができていないのに、シャトルが来たので、あわててこれを受ける動作をすれば、レシーブの意思表示をしたことになりますから、それは、正当なサービスということになり、もしレシーバーが打ち損なえば、失点になります。

この条項を悪用すれば、自分に具合の悪いサービスが来たとき、急に、まだ用意ができていなかったふりをして、うまくごまかせることがあるかも知れません。

しかし、お互にそんなことはしない、また対手もしないだろうと信頼し合ってプレーするのが、何回も繰り返えしますが、英国で育てられたバドミントンの特徴なのです。

なぜサービスのネットインが認められているか

問90 バドミントンではサービスのネット・インが認められているのはなぜですか。サーバーが有利すぎるように思んですが。

答 競技規則の各条項の制定理由も改正理由も一般にはわからないのです。今迄それにふれてお話ししたこともありましたが、結局は臆測に過ぎません。ただし、いろいろな点から推して間違いないと信ぜられることだけをお話ししたのです。

今お尋ねの件は最近改正された点なので、そのときIBFの総会に出席して、直接審議に参加した人にはよくわかっていることと思います。日本から昭和37年の総会まではだれも出席していません。

議事録が送られて来ますが、議決結果だけで、理由の説明はないのです。けれども、サービスのネット・インについては、大体次のように推測できます。

もともと、バドミントンではインサイド、つまりサービスをする側が勝ったときだけ得点になるのでしたね。これは、インサイドには非常に有利な条件です。

これとのバランスをとるために、オーバー・ウエストやオーバー・ハンドのフォルトがきめられているのでしょう。ところが、今度は、この2つのフォルトは、サーバーにとって過重な負担となりました。

プレーヤーの技術が進歩して、特にダブルスでは、対手のロウ（ショート）サービスに対して、ネット際へ突進して打ち返えすのが大変巧みになって来たのです。

さりとてハイ（ロング）サービスを上げても、ダブルスのサービス・コートは、シングルスよりも奥行きが少ないのですから、対手は忽ち後へ下ってシャトルに追いつき、しかもネットに近いところから猛烈にスマッシュすることもできるわけです

インサイドの不利を補う

やはりダブルスではなんとかしてネットすれすれのロウ・サービスを主な武器としなければなりません。そこで、インサイドにいくらかでも不利を補うためにネット・インを認めたのだと思います。

またダブルスでは、サービス・コートが76センチも短かいのですから、シングルスに比べ、レシーバーはよほどネット寄りに構えられますから、対手のサービスがネット・インしても、その割りにレシーブしにくくはなりません。

ラリー中のネット・インはバドミントンばかりではなく、卓球でもテニスでも認められていますね。

東南アジアでは最高の美技

日本では、試合中ネット・インをすると、ネット・インした方のプレーヤーが一寸頭を下げてわびるような様子を見せるのが習慣ですが、東南アジア地域の国々では、ネット・インを最高の美技とし、観衆も大いに拍手を送り、本人も得意そうにするということです。

ネット際でヘヤピン・ショットの応酬をするときなど、明らかにネット・インを狙って打つのです。

少なくとも、ネット・ショットでは、対手がタッチ・ザ・ネットしない限りはほとんど返球できないようなヘアピンを落そうと意図するまで、現在の技術は高まって来ております。

サービスの〝から振り〟はフォルトにならない

問91 シャトルがポストの外側から廻り込んだ場合、ネットより低いところを通ったらフォルトですか。

答 いいえ、フォルトにはなりません。ネットの上縁より低いのは勿論、ネットがなくてポストだけのところくらい下の方でポストの外側を廻っても、対手コートのバウンダリー内へ入ればよいのです。

ただし、サービスのときはいけません。サービス・コートのサイド・ラインぎりぎりに立って、ラケットをうんと外側へ突き出し、対手サービス・コートのセンター・ラインとロング・サービスラインの交差点付近を狙うと、うまいぐあいに入ります。

けれども第17条に「打返しのとき……」となっておりますように、ラリー中だけ認められているのです。

問92 「レット」についてお話して下さい。

答 予期しない偶発的な障害が生じたときには、主審は「レット」を宣言することができます。「レット」は俗にいう「ノー・カウント」で、そのサービスのときのプレーは無効とし、「レット」になった直前にサーブしたプレーヤーが、ふたたびサーブします。つまり、やり直しですね。

突然停電するとか、隣りのコートからシャトルが飛びこんで来たとか、いろいろな場合がありましょう。また、前にお話しした「問題の第12条」（問63）でも、「レット」になる場合があるのは覚えていることと思います。

そのほか、サービスや打合いの途中で、ネットを越えた後、シャトルがネットに乗ったり、ひっかかったりしたときも「レット」とします。

問93 サービスのときのから振りはフォルトではないんですね。

答 そうです。規則書に「シャトルを打ちそこなっても」と書いてあるのは、ミスしたときのことです。これについては第9章68で詳しくお話ししましたね。ここでは、「から振り」が適訳です。

そして、同じやり損ないでもラケットがシャトルにふれれば、サービスがなされたことになります。

サービスのために一旦、構えた後、一寸具合が悪いので移動したいときは、一度シャトルを床へ落して、それから動けばボークにならないとよくいいますが、それはこの条項によるのではありません。

シャトルを手から放して床へ落し、しかもラケットを振らなければ、「今の構えはサービスのためではなかった」の意志を表示したことになります。

その後で床のシャトルを拾い、新しい位置へつき、あらためてサービスの動作に入れば、対手に実害を興えませんから、主審もフォルトとしないだけなのです。ただし、これを続けて何回も繰り返えすと、第22条に違反することになります。

（続）



水鳥 検定合格球

ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトル
コック製造発売元 有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

◆第6回関東大学教育系選手権大会（1月20日―21日、2月20日・神奈川県平塚市市立見付台体育館）

◆女子シングルス

▼準々決勝

横田（日女）2 — 2 — 151 — 0 — 小林、北坂（学芸）
保（日女）2 — 1 — 516 — 3 — 0 — 田
柿崎（東女）2 — 1 — 515 — 7 — 4 — 0 — 中村、広和（日体）
名崎（日女）2 — 1 — 515 — 3 — 11 — 0 — 加藤、栗沢（日体）
谷沢（日女）2 — 1 — 515 — 5 — 8 — 0 — 横尾、中川（日体）
塩崎（日女）2 — 1 — 515 — 3 — 11 — 0 — 原（東女）

▼準決勝

横田（日女）2 — 1111 — 3 — 4 — 0 — 小片
保（日女）2 — 1111 — 6 — 4 — 11 — 1 — 堀川（日体）
坂（日女）2 — 1111 — 4 — 3 — 0 — 中田（日体）
柿崎（東女）2 — 1111 — 4 — 2 — 0 — 北島（日体）
名崎（日女）2 — 1111 — 6 — 8 — 11 — 1 — 塩崎（日女）
和（日体）尾 2 — 1111 — 3 — 4 — 11 — 1 — 横尾

▼準々決勝

小片（日体）2 — 1111 — 4 — 2 — 0 — 北島（日体）
谷沢（日女）2 — 1111 — 4 — 3 — 0 — 中田（日体）
本間（日女）2 — 1111 — 6 — 8 — 11 — 1 — 塩崎（日女）
谷沢（日女）2 — 1111 — 6 — 1 — 0 — 小片
本間（日女）2 — 1111 — 3 — 4 — 11 — 1 — 横尾
本間（日女）2 — 1111 — 4 — 5 — 0 — 谷沢

▼決勝

本間（日女）2 — 1111 — 4 — 5 — 0 — 谷沢
横田、保坂（日女）2 — 1515 — 3 — 2 — 0 — 小林、北田（学芸）
柿崎、名和（東女）2 — 1515 — 7 — 4 — 0 — 中村、広沢（日体）
谷沢、塩崎（日女）2 — 1515 — 5 — 8 — 0 — 横尾、中田（日体）
小片、堀川（日体）2 — 1515 — 3 — 11 — 0 — 加藤、栗原（東女）

▼準決勝

横田保坂 2 — 151516 — 2 — 9 — 17 — 1 — 柿名和崎

◆女子ダブルス

▼準々決勝

本間 2 — 1111 — 4 — 5 — 0 — 谷沢
本間 2 — 1111 — 3 — 4 — 1 — 横尾
谷沢 2 — 1111 — 6 — 1 — 0 — 小片

▼決勝

本間 2 — 1111 — 4 — 5 — 0 — 谷沢
横田、保坂（日女）2 — 1515 — 3 — 2 — 0 — 小林、北田（学芸）
柿崎、名和（東女）2 — 1515 — 7 — 4 — 0 — 中村、広沢（日体）
谷沢、塩崎（日女）2 — 1515 — 5 — 8 — 0 — 横尾、中田（日体）
小片、堀川（日体）2 — 1515 — 3 — 11 — 0 — 加藤、栗原（東女）

▼準決勝

横田保坂 2 — 151516 — 2 — 9 — 17 — 1 — 柿名和崎

◆男子シングルス

▼準々決勝

森田（日体）2 — 1515 — 8 — 12 — 0 — 上田（日体）
門間（日体）2 — 1515 — 8 — 12 — 0 — 桐生（日体）
今井（日体）2 — 1518 — 8 — 1515 — 1 — 牛渡（日体）
木戸（日体）2 — 1515 — 6 — 3 — 0 — 北村（日体）
門間 2 — 151215 — 6 — 1513 — 1 — 森田
木戸 2 — 151511 — 11 — 7 — 15 — 1 — 今井

▼決勝

谷沢塩崎 2 — 15 — 6 — 15 — 4 — 1115 — 1 — 横保坂田
塩崎 2 — 15 — 4 — 15 — 9 — 1215 — 1 — 小堀川片

◆男子ダブルス

▼準々決勝

門間、木戸（日体）2 — 1515 — 9 — 3 — 0 — 武藤、関本（日体）
斉藤、上田（日体）2 — 1515 — 10 — 6 — 0 — 佐藤利、佐藤欽（日体）
牛渡、志子田（日）2 — 1515 — 5 — 7 — 0 — 松本、小瀬（千葉）

▼決勝

門間 2 — 1515 — 14 — 7 — 0 — 木戸

◆一般男子ダブルス

▼決勝

三木、竹原（電々近幾）2 — 1515 — 3 — 10 — 0 — 中谷、山本（電々近幾）
和田（C・F・K）2 — 1515 — 9 — 7 — 0 — 遠藤（スワロー化研）

◆一般女子シングルス

▼決勝

高崎（東大阪短大）2 — 1111 — 5 — 5 — 0 — 大場（東大阪短大）

◆一般女子ダブルス

▼決勝

大場、石崎（東大阪短大）2 — 1515 — 131 — 1 — 1115 — 高崎、坂本（東大阪短大）

◆成年男子シングルス

▼決勝

今井、桐生（日体）2 — 151015 — 7 — 15 — 7 — 1 — 北村、宮崎雅（日体）
木門戸間（キケン）2 — 1210 — 6 — 15 — 1 — 今井桐生
今井桐生 2 — 151015 — 1015 — 8 — 1 — 牛渡志子田
木門戸間 2 — 1515 — 10 — 5 — 0 — 斉藤上田

▼準決勝

木門戸間 2 — 1515 — 10 — 5 — 0 — 斉藤上田
今井桐生 2 — 151015 — 1015 — 8 — 1 — 牛渡志子田
木門戸間（キケン）2 — 1210 — 6 — 15 — 1 — 今井桐生
和田（C・F・K）2 — 1515 — 9 — 7 — 0 — 遠藤（スワロー化研）

▼決勝

和田（C・F・K）2 — 1515 — 9 — 7 — 0 — 遠藤（スワロー化研）

◆昭和45年度大阪総合選手権大会（3月6、13日・大阪市立東淀川体育館）

◆一般男子ダブルス

▼決勝

三木、竹原（電々近幾）2 — 1515 — 3 — 10 — 0 — 中谷、山本（電々近幾）

◆一般女子シングルス

▼決勝

高崎（東大阪短大）2 — 1111 — 5 — 5 — 0 — 大場（東大阪短大）

◆一般女子ダブルス

▼決勝

大場、石崎（東大阪短大）2 — 1515 — 131 — 1 — 1115 — 高崎、坂本（東大阪短大）

◆成年男子シングルス

▼決勝

武村（K・D）2 — 1515 — 10 — 9 — 0 — 溝渕（K・D）
北野、宝来（教員ク）2 — 1515 — 13 — 8 — 0 — 武村、溝渕（K・D）

◆成年男子ダブルス

▼決勝

三木、柿本（電々近幾）2 — 1515 — 6 — 3 — 0 — 木谷、飯取（電々近幾）

◆混合ダブルス

▼決勝

寺崎（敦賀）2 — 0 梶谷（福銀）
府岡（福銀）2 — 0 原（敦賀）

▼三位決定戦

梶谷 2 — 0 原
寺崎 2 — 0 府岡

◆昭和45年度福井県総合選手権大会（3月20―21日・武生市営体育館）

◆男子シングルス

▼準決勝

寺崎（敦賀）2 — 0 梶谷（福銀）
府岡（福銀）2 — 0 原（敦賀）

▼三位決定戦

梶谷 2 — 0 原
寺崎 2 — 0 府岡

◆男子ダブルス

▼準決勝

原、寺崎（敦賀）2 — 0 山本敏、牧田（福井）
府岡、笠川（福銀）2 — 0 高木、梶谷（福銀）

▼三位決定戦

高木、梶谷 2 — 0 山本、牧田

▼決勝

府岡、笠川 2 — 1 原、寺崎

◆30才シングルス

▼決勝

島田（福銀）2 — 0 安間（福銀）
稲木（福銀）2 — 0 角谷（福銀）

▼三位決定戦

安間、長谷 2 — 1 山本、羽柴
多田、佐藤 2 — 0 角谷、島田

◆混合ダブルス

▼準決勝

山本敏、藤井（福井）2 — 0 原、長谷（敦賀）
寺崎、多田（敦賀・福井）2 — 0 笠川、島田（福銀）

▼三位決定戦

笠川、島田 2 — 1 原、長谷

▼決勝

畑（福井）2 — 0 高木（福銀）

◆30才ダブルス

▼決勝

高木、畑（福銀、福井）2 — 0 山本皓、糸谷（武生）

◆女子シングルス

▼準決勝

島田（福銀）2 — 0 安間（福銀）
稲木（福銀）2 — 0 角谷（福銀）

▼三位決定戦

安間、長谷 2 — 1 山本、羽柴
多田、佐藤 2 — 0 山本、羽柴（武商）

◆女子ダブルス

▼準決勝

角谷、島田（福銀）2 — 0 安間、長谷（福銀）
多田、佐藤（福井）2 — 0 山本、羽柴（武商）

▼決勝

角谷 2 — 0 安間
稲木 2 — 0 島田

寺崎、多田　2―0山本敏、藤井

◆第6回福井県実業団選手権大会（4月4日・北陸電力体育館）

◆男子第1部

敦賀市役所　3―0福井市役所
福井銀行A　3―0白木興業
福井市役所　3―2白木興業
福井銀行A　3―2敦賀市役所
敦賀市役所　3―0白木興業
福井銀行A　3―1福井市役所
（順位）①福井銀行A②敦賀市役所③福井市役所④白木興業

◆男子第2部

松文産業　3―0東紡・ナイロン
福井銀行B　3―1北陸電力
松文産業　3―0東紡・敦賀
福井銀行B　3―0東紡・ナイロン
北陸電力　3―1東紡・敦賀
松文産業　3―0北陸電力
福井銀行B　3―0東紡・敦賀
松文産業　3―0福井銀行B
北陸電力　3―2東紡・ナイロン
東紡・ナイ　3―2東紡・敦賀ロン
（順位）①松文産業②福井銀行B③北陸電力④東紡・ナイロン⑤東紡・敦賀

◆男子第3部

日産サニー　3―1津田製作所
武田マイヤ　3―2ウラセ染工

大和紡・福井　3―1津田製作所
日産サニー　3―1武田マイヤー
津田製作所　3―2ウラセ染工
日産サニー　3―1大和紡・福井
大和紡・福井　3―0ウラセ染工
津田製作所　3―0武田マイヤー
日産サニー　3―1ウラセ染工
大和紡・福井　3―0武田マイヤー
（順位）①日産サニー②大和紡・福井③津田製作所④武田マイヤー⑤ウラセ染工

◆女子

北陸電力　3―2大和紡・福井
福井銀行　3―0東洋紡・敦賀
大和紡・福井　3―0福井市役所
東洋紡・敦賀　3―0北陸電力
福井銀行　3―0東洋紡・敦賀
北陸電力　3―0大和紡・福井
東洋紡・敦賀　3―2大和紡・福井
福井銀行　3―0福井市役所
（順位）①福井銀行②北陸電力③東洋紡・敦賀④大和紡・福井⑤福井市役所

◆昭和45年度神奈川県総合選手権大会（3月28日・神奈川県立体育センター）

◆男子シングルス

▼準決勝

渡辺（市庁）　2―1　落合（河崎ラケット）

鈴木（三横）　2―1　宮川（河崎ラケット）

▼決勝

鈴木　2（15―9、4―15、15―11）1　渡辺

◆男子ダブルス

▼準決勝

宮川、落合（河崎ラケット）　2―1　杉田、坂本（立野高、トヨタカローラ神奈川）

瀬戸、武岡（IBM、早大）　2―0　松本、成田（横浜市役所）

▼決勝

瀬戸　武岡　2（12―15、15―6、15―8）1　宮川　落合

◆女子シングルス

▼準決勝

杉田（コロムビア）　2―0　尾山（厚木東）

横尾（平南OG）　2―1　鈴木（捜真）

▼決勝

横尾　2（11―6、11―11、11―4）1　杉田

◆女子ダブルス

▼準決勝

落合、横尾（平南OG）　2―0　秋山、紅野（日立戸塚）

杉田、味藤（コロンビア、日女体大OG）　2―0　金子、清田（平南OG）

▼決勝

杉田　味藤　2（15―2、15―3）0　落合　横尾

◆混合ダブルス

▼準決勝

杉田、杉田（立野高教コロムビア）　2―0　渡辺、森田（横浜市役所）

鈴木、小林（三菱、コロムビア）　2―2　吉良、塗師（菊地回漕店、コロンビア）

▼決勝

杉田　2（15―4、10―0）0　鈴木　小林

◆第20回京都社会人総合体育大会、五大都市予選（4月18日・京都市体育館）

◆青年男子シングルス

▼準決勝

永井（堀場製作）　2―0　小岡（YMCA）

福井（三菱自工）　2―0　入江（YMCA）

▼決勝

永井　2（15―3、0―0）0　福井

◆青年男子ダブルス

▼準決勝

福井、戸沢（三菱自工）　2―0　永井、本間（堀場製作）

脇坂、荒木（北山ク）　2―0　小島、入江（YMCA）

▼三位決定戦

小島、入江　2―0　永井、本間

▼決勝

脇坂　荒木　2（15―12、10―0）0　福井　戸沢

◆オープン男子シングルス

▼準々決勝

高藤（中京青年の家）　2―0　河野（竹原ク）

渡辺（関西補給所）　2―1　佐々木（竹原ク）

▼三位決定戦

河野　2―0　佐々木

▼決勝

高藤　2（15―8、9―0）0　渡辺

◆オープン男子ダブルス

▼準決勝

豊田、中尾（三菱自工）　2―1　佐々木、中野（竹原ク）

坂口、渡辺（関補）　2―0　早川、松岡（竹原ク）

▼決勝

坂口、渡辺　2―1　豊田、中尾

◆青年女子シングルス

▼準決勝

松本（川島織物）　2―0　岡崎（三菱自工）

永井（三菱自工）　2―0　山下（三菱自工）

▼三位決定戦

岡崎　2―1　山下

▼決勝

松本　2―0　永井

◆青年女子ダブルス

▼準決勝

永井、岡崎（三菱自工）　2―0　椹木、山口（桂OB）

山下、小林（三菱自工）　2―0　岩崎、奥村（YMCA）

▼三位決定戦

椹木、山口　2―0　岩崎、奥村

▼決勝

永井、岡崎　2―0　山下、小林

公　　告

日本バドミントン協会では、総会の決定にもとずき、昭和46年度の協会検定、審査合格、および推奨のバドミントン用具を、別表のように決めましたので、ここにお知らせします。

昭和46年４月１日

日本バドミントン協会

昭和46年度日本バドミントン協会検定合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格（１打）
（水鳥）	有限会社 西村スポーツ	バード・デラックス	¥ 2,000
		バード・トップ	¥ 1,850
	日本バドミントンインダストリ株式会社	CM・ホワイト・ウィン	¥ 1,500
		CM・シルバーブルー	¥ 1,300
		CM・ゴールドブルー	¥ 1,200
	有限会社 ジャワ商会	ファスト・シルバー	¥ 1,550
		ファスト・ゴールド	¥ 1,700
	株式会社 諸江製作所	サンバタ・キング	¥ 1,850
		サンバタ・クィーン	¥ 1,650
		サンバタ	¥ 1,650
	羽立工業株式会社	水鳥羽立検定合格球	¥ 2,000
	株式会社 ヨネヤマラケット	トーナメント	¥ 1,800
		トーナメント・デラックス	¥ 2,100
	株式会社 三和	サンワ印ハイレッド	¥ 1,500
	大阪合繊株式会社	O.G.S	¥ 1,650
	株式会社 トヨダ・スポーツ	トヨダ・トーナメント・ブラック	¥ 1,700
		トヨダ・トーナメント・ブルー	¥ 1,850
（陸鳥）	羽立工業株式会社	陸鳥羽立検定合格球	¥ 1,140
	株式会社 諸江製作所	サンバタ・スター	¥ 1,000
		サンバタ	¥ 1,000
	株式会社 ヨネヤマラケット	トレーニング検定球	¥ 1,000
ネットの部	松本製網株式会社	倉敷ビニロン	¥ 1,800
	株式会社 寺西喜商店	バドミントンネット検定ビニロンKT518	¥ 2,200
	鐘屋産業株式会社	ナイロンA	¥ 3,000
		ビニロンB	¥ 2,500
	株式会社 ジィティヤング	702112	¥ 2,700
		703115	¥ 2,200
		703015	¥ 2,000
	ミセキネット製作所	№50VA	¥ 2,600
		№52 A	¥ 2,000

審査合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格（１打）
	株式会社 メトロ	インターナショナル・トーナメントモデル	¥ 2,400
	羽立工業株式会社	カレッヂ	¥ 1,800
		ハタチ・チェンジャー	
		ハタチ・ハイコック	

昭和46年度日本バドミントン協会推奨用具

	銘柄名		会社名
ラケットの部	№B-70 セブンティー	¥5,000	河崎ラケット工業株式会社
	№B-69 ブルーリース	¥3,500	〃
	№1,200 スタミナデラックス	¥2,800	〃
	№1,000 スタミナ	¥2,200	〃
	№ 201 ウィニングコース	¥1,500	〃
	№ 206 エバーウィン（張上り）	¥1,200	〃
	№ 208 エバーウィンジュニア（張上り）	¥1,200	〃
	№ ダンロップマックスプレイフォート	¥4,320	株式会社 諸江製作所
	№3,500 キングメイト	¥3,300	〃
	№3,333 ゴールドキング	¥3,000	〃
	№3,000 ゴールドキング	¥2,500	〃
	№2,000 キングクリッパー	¥1,500	〃
	№1,000 シルバーデラックス	¥1,400	〃
	№ 800 ダンディ	¥1,000	〃
	№T—1 エクセレント	¥3,500	大阪合繊株式会社
	№ 2 ハイ・スピード	¥3,500	〃
	№ 3 ハイ・トーマス	¥3,000	〃
	№ 10 フィアレス	¥2,500	〃
	№ 20 プロフェショナル	¥2,000	〃
	№ 30 フェニックス・インペリアル	¥1,500	〃
	№ 80 ピーコック	¥1,000	〃
	№ 90 クラブモデル	¥ 700	〃
	# 8,000 アルミナハイパワー	¥4,000	株式会社ヨネヤマラケット
	# 7,000 アルミナエース	¥4,000	〃
	# 6,500 トップエース	¥3,500	〃
	# 6,000 ファイブエースデラックス	¥3,500	〃
	# 5,000 ファイブエース	¥3,000	〃
	# 4,000 カレッジエイトデラックス	¥2,500	〃
	# 3,000 カレッジエイト	¥2,000	〃
	# 2,000 キングダイヤ	¥1,600	〃
	# 1,000 クィーンハート	¥1,300	〃
	# 8 スリーエイト	¥1,000	〃
	# 7 ラッキーセブン	¥ 800	〃
	キャリー 7	¥2,500	株式会社 メトロ
	カァルトンラケット 3ポイント7	¥1,800	〃
	カァルトンラケット 3ポイント9	¥4,800	〃
	№4,000 ニューアルバート	¥2,500	株式会社 トヨダスポーツ
	№3,000 ニューブルー	¥2,000	〃
	№2,000 ニューブラック	¥1,500	〃
	№1,000 ニューミニ	¥1,200	〃
	№ 8 ウインナー	¥ 900	〃
ウェアーの部	№ 500 半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,200	河崎ラケット工業株式会社
	№ 510 半袖シャツエイトロック（男子）	¥ 900	〃
	№ 518 半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,600	〃
	№ 502 長袖シャツエイトロック（男子）	¥1,300	〃
	№ 532 ショートパンツストレッチ	¥1,700	〃
	№ 533 ショートパンツ（男子）インサイドベルト付	¥1,500	〃
	№ 535 ショートパンツ（男子）	¥1,000	〃
	№ 525 長スボンストレッチ（男子）	¥3,000	〃
	№ 500 半袖シャツエイトロック（女子）	¥1,200	〃
	№ 510 半袖シャツ（女子）	¥ 900	〃
	№ 595 スコート（プリーツ）	¥1,100	〃
	№ 592 スコート（ボックス）（ユーバ型）	¥1,500	〃
	№ 590 スコート（フレアー）	¥1,500	〃
	№ 505 ノースリーブシャツ	¥1,200	〃
	№ 502 半袖・長袖シャツ（女子）	¥1,300	〃
	№ 518 ライン入りシャツ（女子）	¥1,600	〃
	# 104 ショートパンツ	¥1,600	株式会社ヨネヤマラケット
	# 105 ショートパンツ	¥1,400	〃
	# 106 ショートパンツ	¥1,100	〃
	# 107 シャツ（男子）	¥1,100	〃
	# 108 〃	¥1,400	〃
	# 109 〃	¥1,500	〃
	# 200 ミニスカート	¥1,800	〃
	# 201 〃	¥1,600	〃
	# 202 〃	¥1,200	〃
	# 203 〃	¥1,100	〃
	# 204 シャツ（女子）	¥1,400	〃
	# 205 〃	¥1,400	〃
	# 206 〃	¥1,500	〃
シューズ部	№ 396 チャンピオン	¥1,300	河崎ラケット工業株式会社
	№ 392 ジュニア	¥ 850	〃
	№ 390 5ポイント	¥1,000	〃
	バドミントンシューズ	¥1,400	株式会社ヨネヤマラケット

Here and There in Japan



By Tadahiro Goto

★ **BADMINTON WILL BE APPEARED** in Munich Olympic Games next summer as a demonstration, this is reported to the recently held IBF councils meeting by West German representatives.

We are very glad to hear that, because there's a large possibility that badminton will be included in the official Olympic programs in the near future.

By the way, we've heard very little from east European countries or Soviet Union. as far as the badminton are concerned. They have no interest in badminton, I'm afraid. If so, I believe IBF should take some steps toward them to expand the world of badminton.

★ **BADMINTON AMONG HOUSE-WIVES** has becoming popular in Japan. By rationalization of their house-keeping, they are not so busy as they were and has set their eyes to sports or physical activities.

(see page 8)

The sports they like best is volleyball, table tennis next, and badminton, third. Estimated population of house-wives volleyball is said more than 3,000,000.

Most of their group activities are based on PTA (Parents & Teacher's Association) clubs in school. But some of them have joined to the public or private clubs.

Let's see the case of Mitaka City, suburbs of Tokyo Metropolice. There are two private clubs in the city, and more than one hundred women have been enjoying their practice once a week. Their franchaise is in the municipal gym, which the city office has offered them to use for nothing.

One of the clubs originally were tennis club, but most of the participants prefered badminton, once they had taught how to play the game.

Mr. Sawato, chief instructor thinks there's a good chance that Mitaka will be the 'city of badminton' if they continue their activities strenuously.

★ **ON PAGE 17, YOU CAN SEE** two pictures in which a man with the happiest smile by his bride. He is Ippei Kojima, the strongest international player we ever had.

Wedding ceremony took place on April 29, the same day of Emperor's Birthday. He acqainted with Miss. Yukie Tsuchitani, who now is his wife, in Sapporo city when he went there a year ago on business.

★ **GENERAL MEETING OF NBA** (Nippon Badminton Association) re-elected Mr. Hirotoshi Honda as president. Also Mr. Shoichi Kawabata will take a seat as a chairman of executive committee. Mr. Honda, ex-president of Tokyo Gas Co., is now president of Tokyo Trade Center Building Co., which is one of the highest building in Japan.

Mr. Kawabata, one-time outstanding player and captained for the Thomas Cup squad several years ago.

【バドミントン界】 第21号
昭和46年4月25日 印刷
昭和46年5月1日 発行
編集兼発行人 川端昇市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一(内線)二五一 四六七・七〇九五(直通)
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都中央区八丁堀二の八の二 有限会社 和田印刷所
定価 一部 百円

ブルーリースを敵にまわすな！



K
TOKYO
kawasaki
racket
東京都台東区台東2－28－5
電話　東京(03)831－1884・0453

月刊「バドミントン界」第二十一号
昭和四十六年五月一日発行
昭和四十四年十二月二十三日（毎月一回一日発行）第三種郵便物認可
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円

